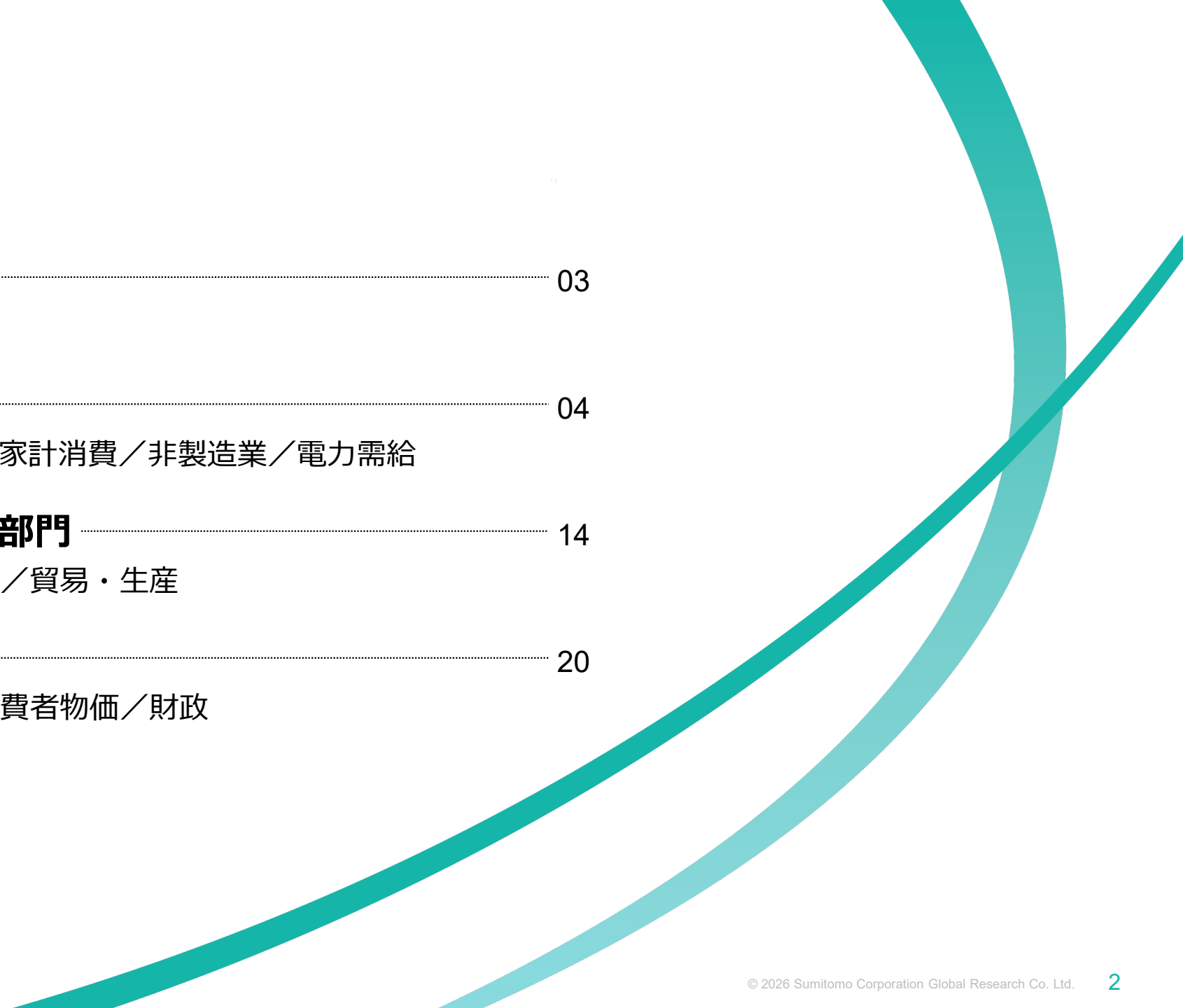


中国景気状況 – 2026年9月 –

住友商事グローバルリサーチ株式会社 経済部 2026年9月30日



01	中国景気の総括	03
	マクロダッシュボード	
02	実体経済動向	04
	GDP／PMI／生産・価格・在庫／家計消費／非製造業／電力需給	
03	投資・不動産・雇用・対外部門	14
	固定資産投資／不動産／労働市場／貿易・生産	
04	金融・物価・財政動向	20
	金融／卸売物価（企業物価）／消費者物価／財政	

中国マクロ経済ダッシュボード（2026年9月時点）

今月の総括



- 内需は依然弱いものの、外需とハイテク分野が景気を下支え
- PMIや小売、生産は改善する一方、投資の減少幅は拡大
- 改善は外需・ハイテクに偏り、回復の広がりや自律性に乏しい

総合判断（景気モメンタム）

緩やかに
改善
↑

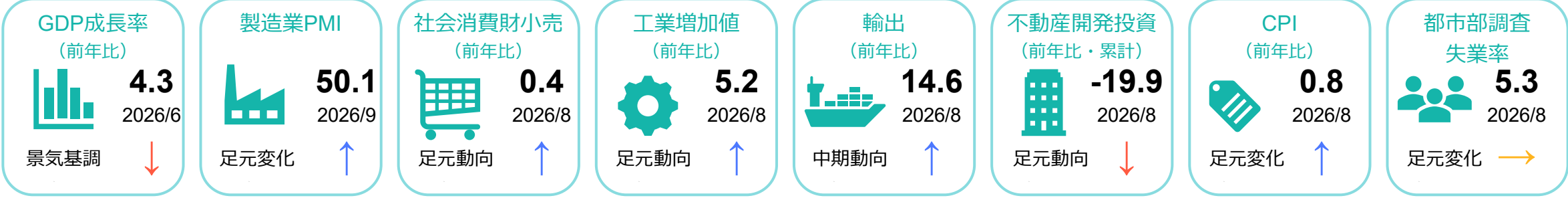
足もとでは緩やかな改善が続くが内需は依然として弱含む。外需・ハイテクへの偏りが強く、持続性は限定的

主要マクロ経済指標（景気モメンタム）

注：景気基調＝4四半期比較、足元変化＝前回値比較、足元動向＝短期トレンド比較、中期動向＝半年トレンド比較

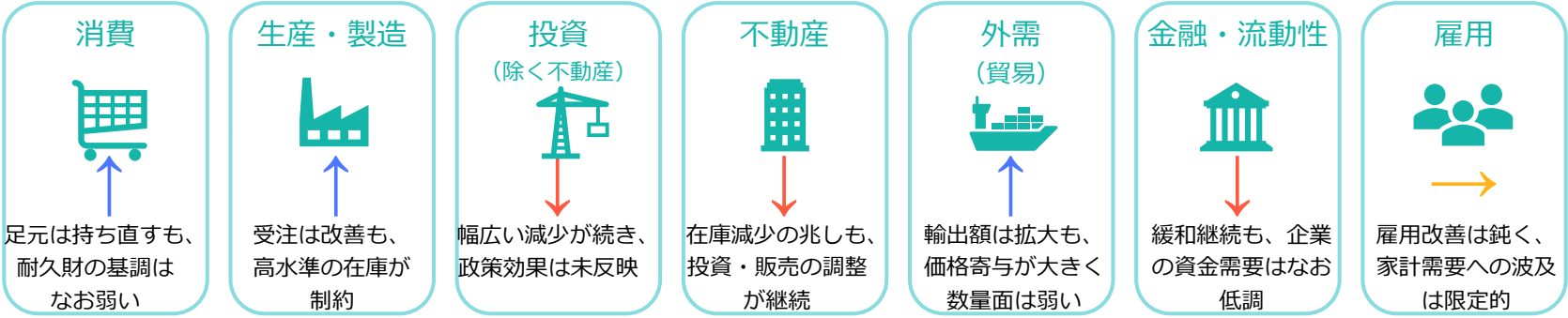
凡例： ↑ 改善（トレンド上向き） → 横ばい ↓ 悪化（トレンド下向き）

注：矢印は各指標のモメンタム評価



景気ヒートマップ（分野別の景況判断）

凡例： ↑ 改善 → 横ばい ↓ 悪化



景気先行きの注目ポイント

- 補助対象外を含む家計需要の持続的改善
- 幅広い業種での投資減少の下げ止まり
- 政策金融の着工・投資実績への接続
- 若年雇用と家計所得の改善の広がり
- 輸出数量の持ち直しと国内需要への波及

注：矢印・色は各指標の評価基準に基づく判断
(出所：中国国家统计局、中国物流・購買連合会、中華人民共和国税関総局、Bloombergより住友商事グローバルリサーチ（SCGR）作成）
注：各指標は2026年9月時点の最新公表値を使用。公表時期により対象月は異なる

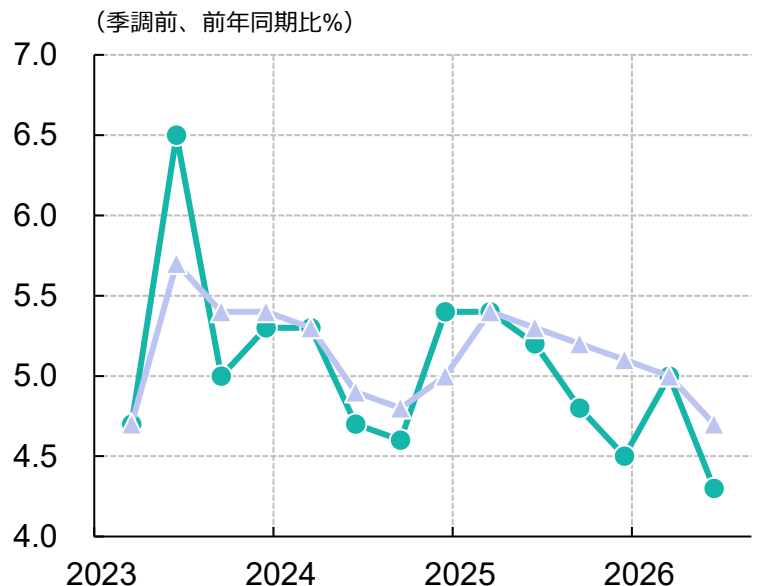
GDP成長率

- 4－6月の実質GDP成長率は4.3%に鈍化し、景気減速が四半期ベースでも明確に
- 第三次産業が下支えする一方、第二次産業の減速で成長の裾野は縮小
- 地域差も鮮明となり、外需・生産の下支えだけでは自律回復に至らず

実質GDP成長率

- 4－6月は4.3%へ伸びが鈍化
- 年初の持ち直しは2四半期続かず
- 成長ペースは再び鈍化

● 各四半期GDP成長率 ▲ 累計GDP成長率

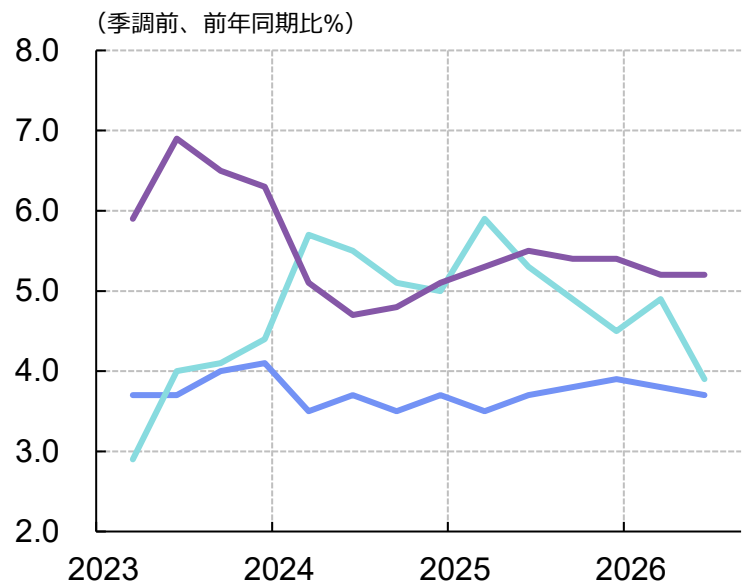


(出所：中国国家统计局、BloombergよりSCGR作成)

産業別GDP成長率推移（年初来累計）

- 第二次産業の減速目立つ
- 第三次産業との成長差拡大
- 産業間で成長の広がり乏しい

— 第一次産業 — 第二次産業 — 第三次産業

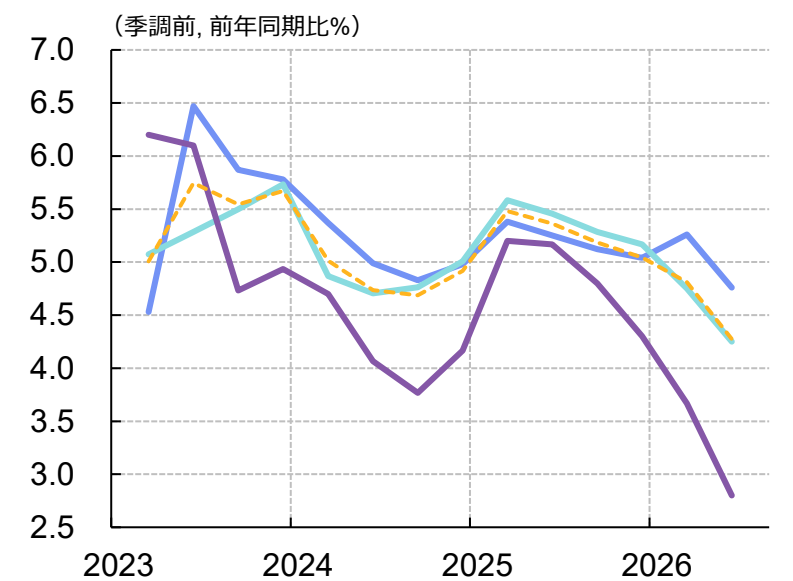


(出所：中国国家统计局、BloombergよりSCGR作成)

地域別GDP成長率推移（年初来累計）

- 地域間の成長格差が鮮明
- 東部と内陸の成長率は全国並みを維持
- 東北は他地域との成長差が拡大している

— 東部平均 — 内陸平均
— 東北平均 - - 全国平均



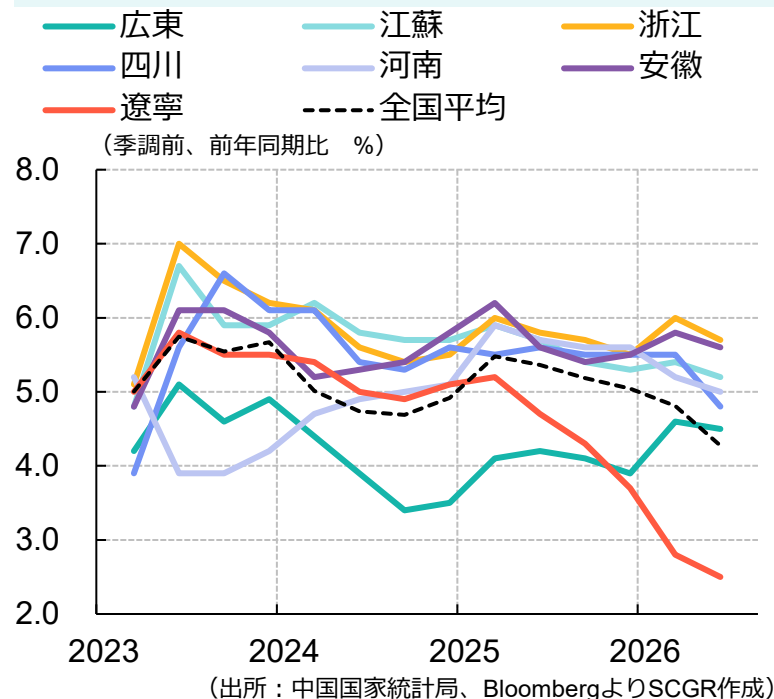
(出所：中国国家统计局、BloombergよりSCGR作成)

地域別GDP動向

- 主要省の成長率は全国平均付近に集中する一方、足元では地域差が再び拡大
- 沿海では上海・浙江などが相対的に高い一方、広東は低位にとどまるなど一様でない
- 東北の弱さが鮮明となり、成長を牽引する地域は一部に偏る

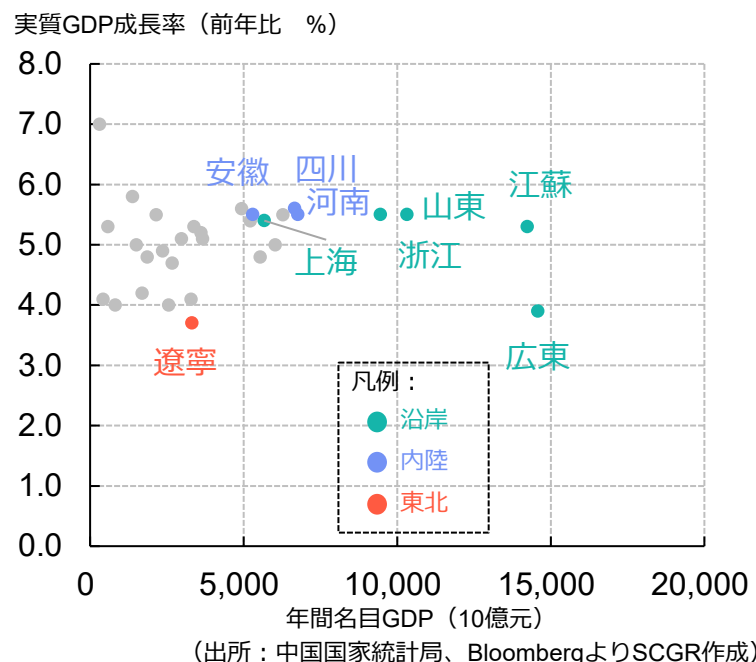
省別GDP成長率推移（累計成長率）

- 主要省の成長率は総じて低下
- 沿海・内陸の一部は全国平均を上回る
- 遼寧の落ち込みが地域差拡大の一因



中国主要省のGDP規模と成長率（2025年）

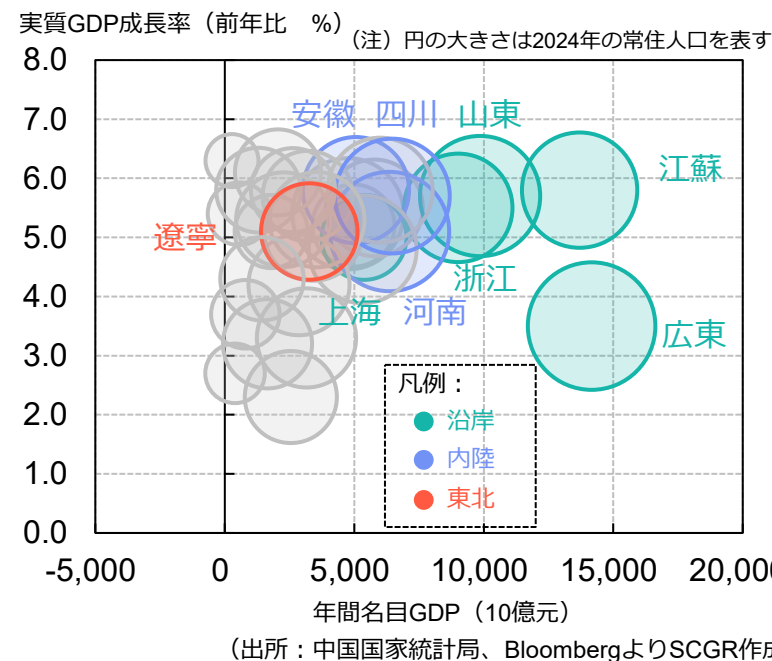
- 経済規模の大きい省でも成長率に差が残る
- 江蘇・浙江は広東を上回る成長
- 経済規模と成長率は必ずしも一致しない



中国経済の地域分化

- 沿海主要省でも成長率にばらつき
- 江蘇は規模・成長率とも相対的に高い
- 成長の牽引役は一部の省に偏る

— 主要省のGDP規模・成長率・人口（2024年） —



中国経済の地域分化 — 省別GDP成長率年次ヒートマップ —

- 地域別では中西部の高成長と沿海部の鈍化が併存し、成長のばらつきが続く
- 安徽など一部地域は相対的に高成長を維持する一方、東北は伸び悩みが継続
- 地域間格差の拡大が続くかが全国成長の持続性をみる上での確認点

単位：実質GDP成長率（前年比％）

地域	省・市	特性	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
全国平均			7.8	7.4	7.1	6.8	6.5	2.8	7.9	2.8	5.7	4.9	5.0
沿岸	北京	政策の中心、IT産業	6.9	7.0	7.0	6.9	6.4	1.4	9.2	1.0	5.5	5.1	5.4
	天津	不動産	6.9	5.8	3.2	3.2	4.8	1.5	6.8	1.2	4.5	4.9	4.8
	上海	金融・サービス	7.0	7.1	7.2	6.9	6.3	2.0	8.7	0.2	5.3	4.9	5.4
	広東	製造業 輸出産業	8.0	7.8	7.5	6.7	6.3	2.4	8.3	2.1	4.9	3.5	3.9
	江蘇	高度化製造業	8.6	7.6	7.0	6.5	6.0	3.8	9.1	2.7	5.9	5.7	5.3
	浙江	民間企業 デジタル関連	8.0	7.7	7.8	7.3	7.0	3.8	8.9	3.4	6.2	5.5	5.5
	山東	重工業 素材産業	7.8	7.5	7.5	6.5	5.4	3.6	8.5	4.0	6.1	5.6	5.5
	福建	輸出	8.9	8.2	7.9	8.1	7.5	3.2	8.3	4.2	4.5	5.4	5.0
中部	河南	内需	8.4	8.4	7.6	7.6	6.8	1.1	5.9	2.4	4.2	5.1	5.6
	湖北	鉄鋼業 自動車	8.6	8.2	7.8	7.6	7.3	-5.4	12.9	4.0	6.1	5.6	5.5
	湖南	消費市場	8.5	7.9	7.9	7.6	7.6	3.8	7.6	4.2	4.7	4.7	4.8
	安徽	EV・電子部品関連	8.7	8.6	8.4	7.8	7.4	3.7	8.2	3.3	5.8	5.8	5.5
	江西	製造業	9.1	8.8	8.6	8.5	7.9	3.8	8.9	4.3	4.2	5.1	5.2
西部	重慶	製造業	11.0	10.5	9.1	5.9	6.3	3.9	8.4	2.5	6.2	5.6	5.3
	四川	製造業	7.9	7.6	7.9	7.8	7.4	3.8	8.3	2.9	6.1	5.6	5.5
	陝西	IT関連	7.7	7.5	7.7	8.2	6.1	2.1	6.7	4.5	4.3	5.2	5.1
	貴州	小規模経済	10.7	10.4	10.1	8.9	8.4	4.6	8.3	1.2	5.1	5.3	4.9
東北	遼寧	重工業	2.8	0.6	4.2	5.6	5.6	0.8	6.0	2.2	5.5	5.1	3.7
	吉林	製造業 自動車	6.1	6.5	5.2	4.5	3.1	2.4	6.6	-1.9	6.5	4.2	5.0
	黒竜江	天然資源	5.4	4.3	5.8	4.3	4.1	1.0	6.2	2.8	2.8	3.2	4.2

（注）暖色は期間内で相対的に高い成長率、寒色は相対的に低い成長率を示す

（出所：中国国家统计局、BloombergよりSCGR作成）

中国経済の地域分化 — 省別GDP成長率四半期ヒートマップ —

- 2026年4－6月の全国成長率は4.3%へ鈍化し、主要省間の成長率格差も鮮明に
- 上海・深圳や浙江など、沿海部の一部地域が高い伸びを保つ一方、東北と中西部の一部は減速
- 成長を牽引する地域は限られ、全国的な成長の広がりとは確認できない

単位：実質GDP成長率（前年比％）

地域	省・市	特性	2024Q2	2024Q3	2024Q4	2025Q1	2025Q2	2025Q3	2025Q4	2026Q1	2026Q2
全国平均			4.7	4.7	4.9	5.5	5.4	5.2	5.0	4.8	4.3
沿岸	北京	政策の中心、IT産業	5.4	5.1	5.1	5.5	5.5	5.6	5.4	5.9	5.4
	天津	不動産	4.9	4.7	4.9	5.8	5.3	4.7	4.8	5.0	4.8
	上海	金融・サービス	4.8	4.7	4.9	5.1	5.1	5.5	5.4	5.9	5.6
	広東	製造業 輸出産業	3.9	3.4	3.5	4.1	4.2	4.1	3.9	4.6	4.5
	深圳	イノベーション・ハブ	5.9	5.4	5.8	5.2	5.1	5.5	5.5	5.8	5.8
	江蘇	高度化製造業	5.8	5.7	5.7	5.9	5.7	5.4	5.3	5.4	5.2
	浙江	民間企業 デジタル関連	5.6	5.4	5.5	6.0	5.8	5.7	5.5	6.0	5.7
	山東	重工業 素材産業	5.8	5.6	5.6	6.0	5.6	5.6	5.5	6.0	5.6
	福建	輸出	5.6	5.5	5.4	5.7	5.7	5.2	5.0	5.1	4.0
中部	河南	内需	4.9	5.0	5.1	5.9	5.7	5.6	5.6	5.2	5.0
	湖北	鉄鋼業 自動車	5.8	5.7	5.6	6.3	6.2	6.0	5.5	5.4	5.0
	湖南	消費市場	4.5	4.5	4.7	5.4	5.6	5.4	4.8	3.0	2.7
	安徽	EV・電子部品関連	5.3	5.4	5.8	6.2	5.6	5.4	5.5	5.8	5.6
	江西	製造業	4.5	4.7	5.1	5.7	5.6	5.4	5.2	5.0	4.0
西部	重慶	製造業	6.1	6.0	5.6	4.3	5.0	5.3	5.3	4.5	4.2
	四川	製造業	5.4	5.3	5.6	5.5	5.6	5.5	5.5	5.5	4.8
	陝西	IT関連	4.3	4.6	5.2	5.6	5.5	5.3	5.1	4.0	3.8
	貴州	小規模経済	5.3	5.2	5.3	5.3	5.3	4.9	4.9	4.7	4.0
東北	遼寧	重工業	5.0	4.9	5.1	5.2	4.7	4.3	3.7	2.8	2.5
	吉林	製造業 自動車	5.7	4.1	4.2	5.5	5.7	5.3	5.0	4.5	2.4
	黒竜江	天然資源	1.5	2.3	3.2	4.9	5.1	4.8	4.2	3.7	3.5

（注）暖色は期間内で相対的に高い成長率、寒色は相対的に低い成長率を示す

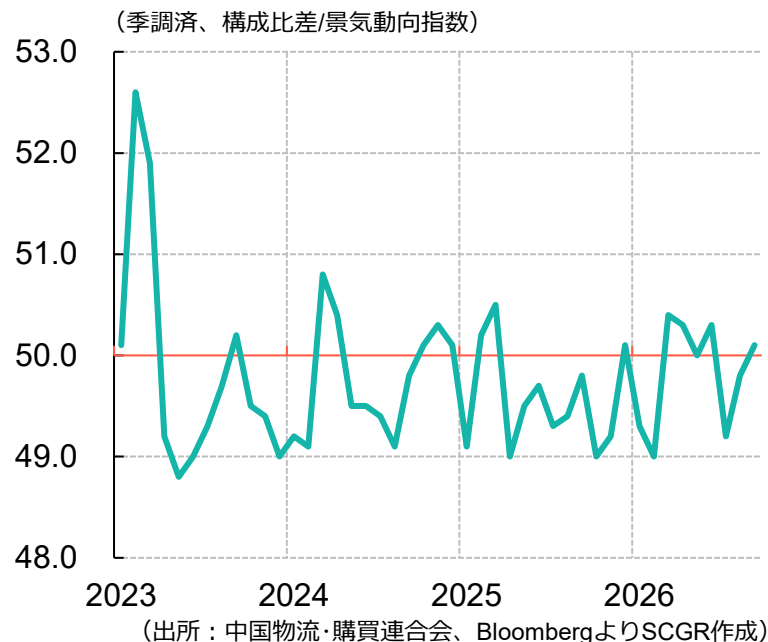
（出所：中国国家统计局、BloombergよりSCGR作成）

PMIの動向①

- 製造業は受注・生産の改善を背景に拡張圏へ回復
- 中小企業も改善したが、なお50を下回り景況感には格差
- 非製造業もサービス・建設の持ち直しで拡張圏へ回復

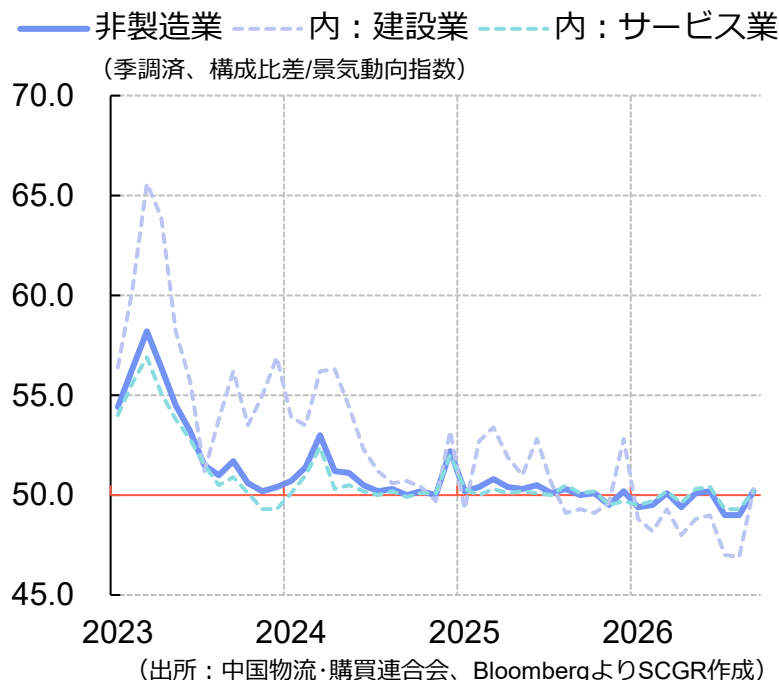
製造業PMI

- 製造業PMIは50.1と拡張圏へ回復
- 受注・生産はともに50を上回る
- 製造業の景況感は持ち直しの動き



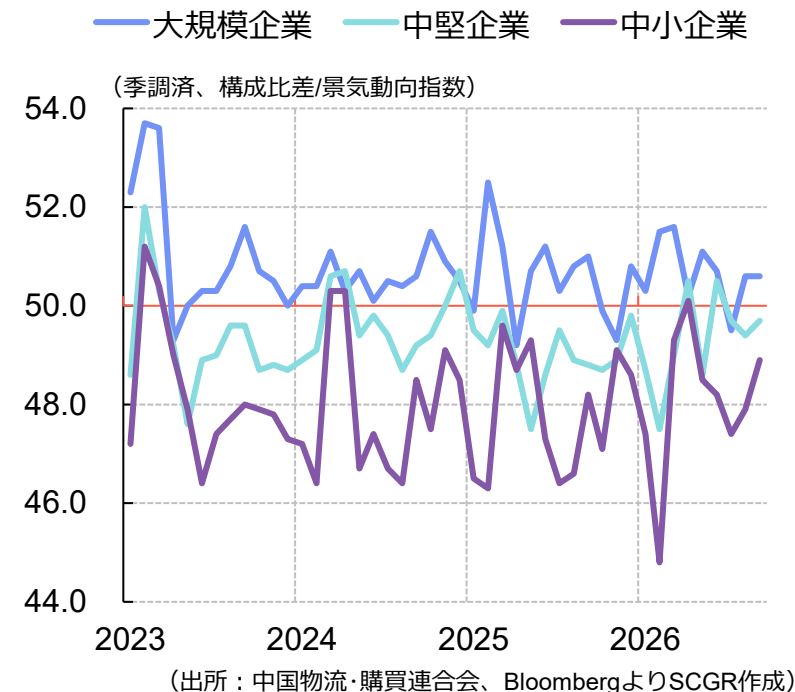
非製造業PMI

- 非製造業は50.2と拡張圏へ回復
- サービス・建設とも50を上回る
- 非製造業の活動に持ち直しがみられる



製造業PMI企業規模別

- 大規模企業は50超、中小企業は縮小圏
- 中小企業も9月は景況感が改善
- 企業規模による景況感の格差は続く

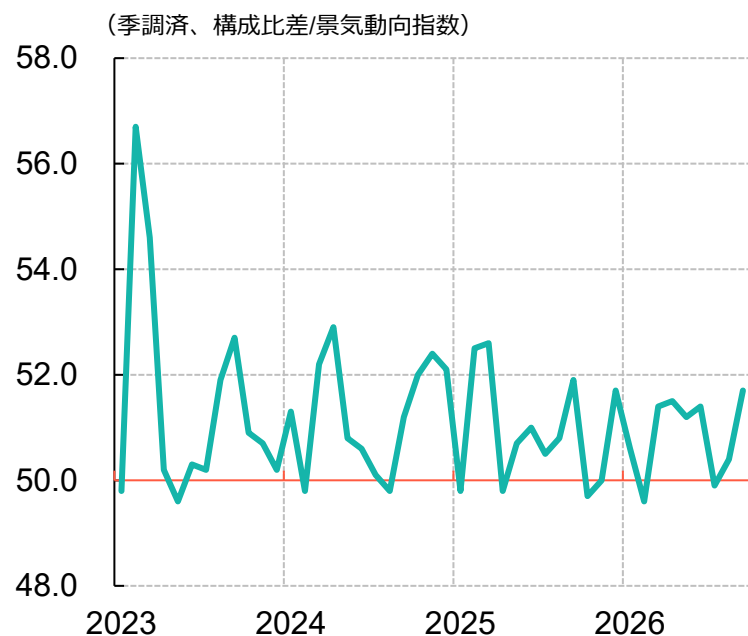


PMIの動向②（生産指数、受注指数、雇用指数の推移）

- 受注と生産は拡張圏へ持ち直す一方、雇用は縮小が続く
- 新規受注は拡張圏を維持も、受注残は低水準で需要の力強さを欠く
- 先行指標は上向くものの、雇用などへの波及は限定的

製造業PMI生産指数

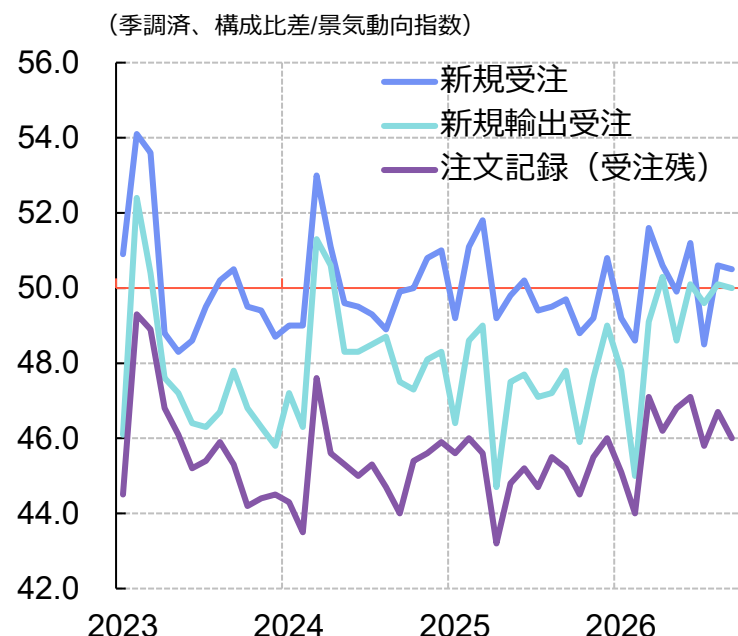
- 生産指数は50を上回り持ち直している
- 受注改善などを背景に生産は持ち直しへ
- 生産の上向きが基調的な需要拡大を示すとは限らない



(出所：中国物流・購買連合会、BloombergよりSCGR作成)

製造業PMI受注指数

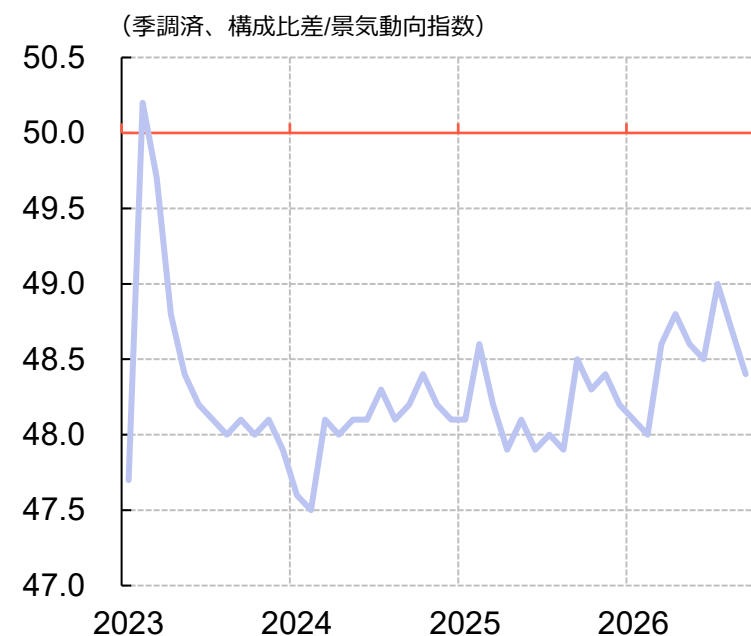
- 新規受注と輸出受注は50近辺で推移
- 受注残は厚みを欠いているとの指摘もみられる
- 需要改善の広がりはおお限定的



(出所：中国物流・購買連合会、BloombergよりSCGR作成)

製造業PMI雇用指数

- 雇用指数は50未満で推移
- 受注・生産の持ち直しほど雇用は改善していない
- 企業活動の持ち直しは雇用改善に波及していない



(出所：中国物流・購買連合会、BloombergよりSCGR作成)

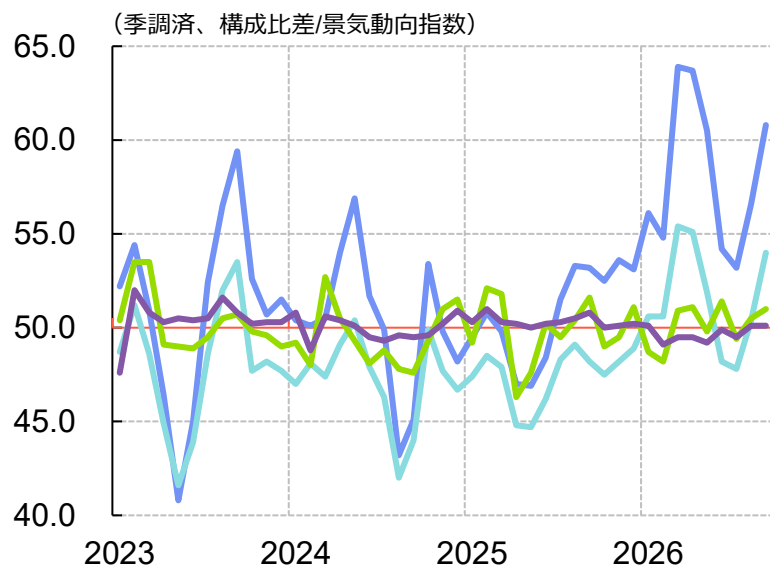
PMIの動向③（価格・在庫）

- 投入価格が大幅に上昇し、出荷価格も上昇
- 原材料・完成品在庫は縮小圏で在庫調整が続く
- コスト上昇が進むなか、企業収益への影響に注意

製造業PMI仕販指数推移

- 原材料投入価格の上昇が一段と鮮明に
- 商品出荷価格も54.0まで上昇
- コスト上昇の企業収益への影響に注意

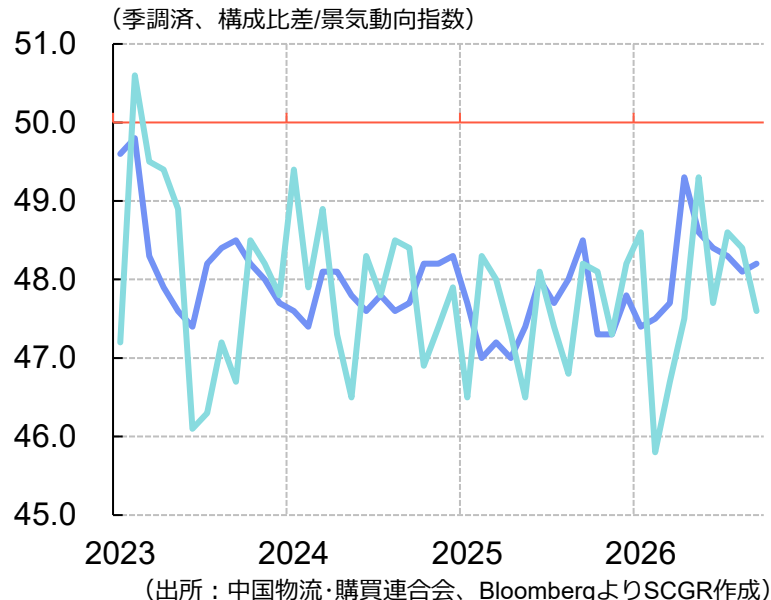
— 主要原材料仕入価格 — 商品出荷価格
— 購買量 — サプライヤー納期



製造業PMI在庫指数推移

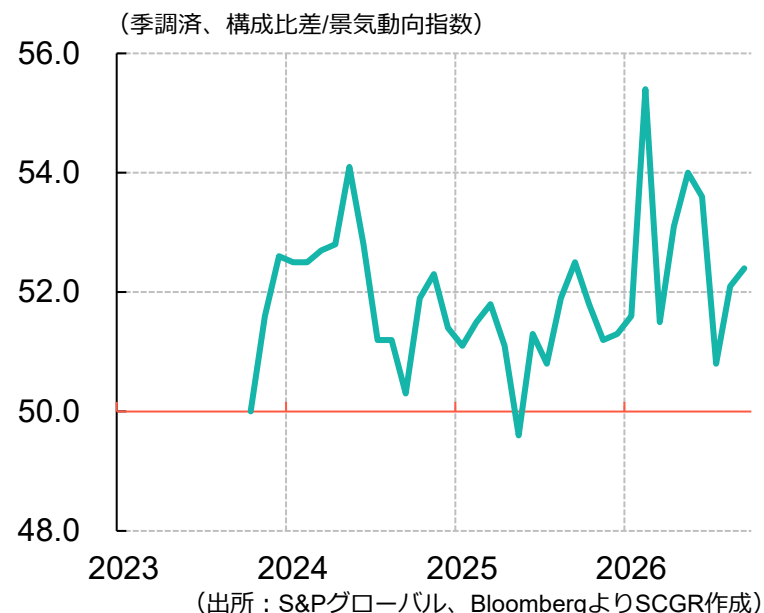
- 原材料・完成品在庫はともに50を下回る
- 完成品在庫は減少が続き、在庫調整が進行
- 需要の弱さから在庫調整圧力が残る

— 原材料在庫 — 完成品在庫



S&P グローバルPMI

- 民間調査の製造業景況感は拡張圏を維持
- 政府調査も9月は拡張圏へ回復
- 企業景況の改善度合いには調査間のばらつきがある

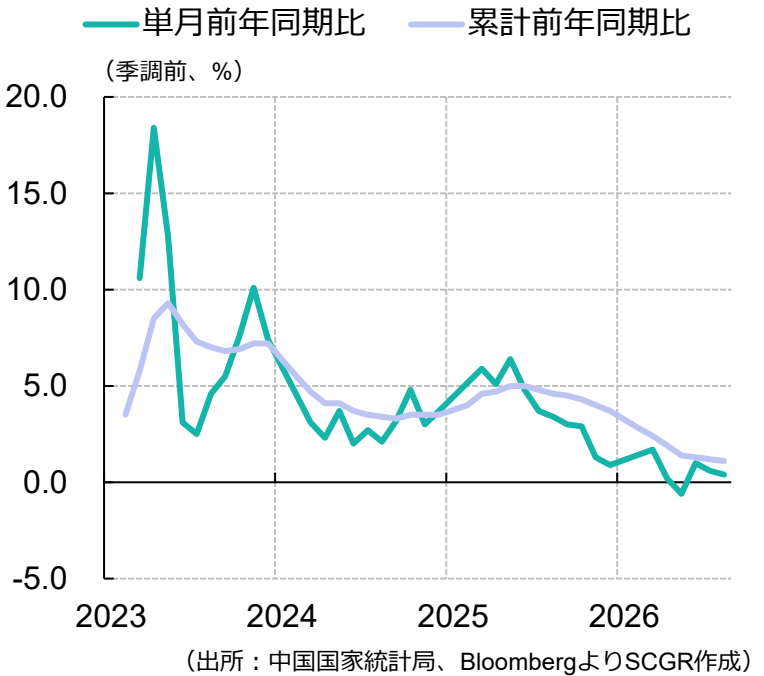


家計消費

- 小売の伸びはほぼゼロまで鈍化し、財消費の弱さが鮮明に
- 通信機器や飲料は伸びる一方、耐久財・住宅関連は減少
- 品目間のばらつきが大きく、消費回復の広がりは見られない

社会消費財小売月次成長率

- 単月の伸びはほぼゼロ
- 累計の増勢も縮小が続く
- 消費の基調は弱い



小売商品別単月前年同期比

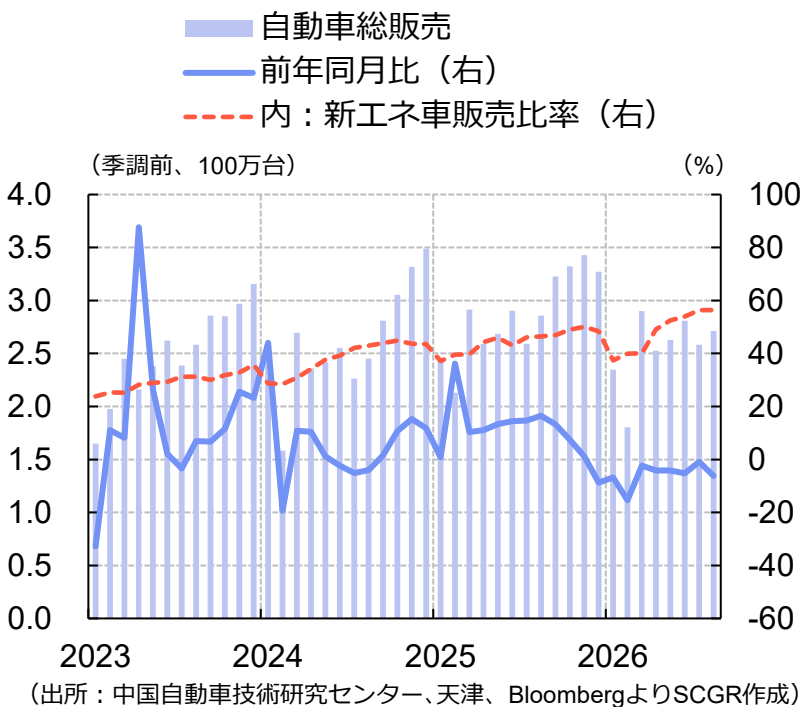
- 通信機器など一部は高い伸び
- 自動車や住宅関連は大幅減
- 品目間のばらつきが大きい

商品	(%)
通信機器	27.3
アルコール飲料・たばこ	12.5
文化・事務用品	5.8
飲料	4.9
化粧品	4.9
漢方薬・西洋医薬品	4.8
穀物・油・食品	4.0
家電製品&音声・映像機器	2.3
日用品	1.8
衣料品、履物、帽子、ニットウェア	-0.5
書籍、新聞、雑誌	-2.3
娯楽用品	-4.8
石油・石油製品	-7.0
家具	-7.9
建築・装飾材	-11.8
金・銀・宝石	-17.5
自動車	-18.5

(出所：中国国家统计局、BloombergよりSCGR作成)

自動車販売

- 販売台数は一定水準を維持
- 地域別販売の伸びは弱い
- 自動車需要は力強さを欠く

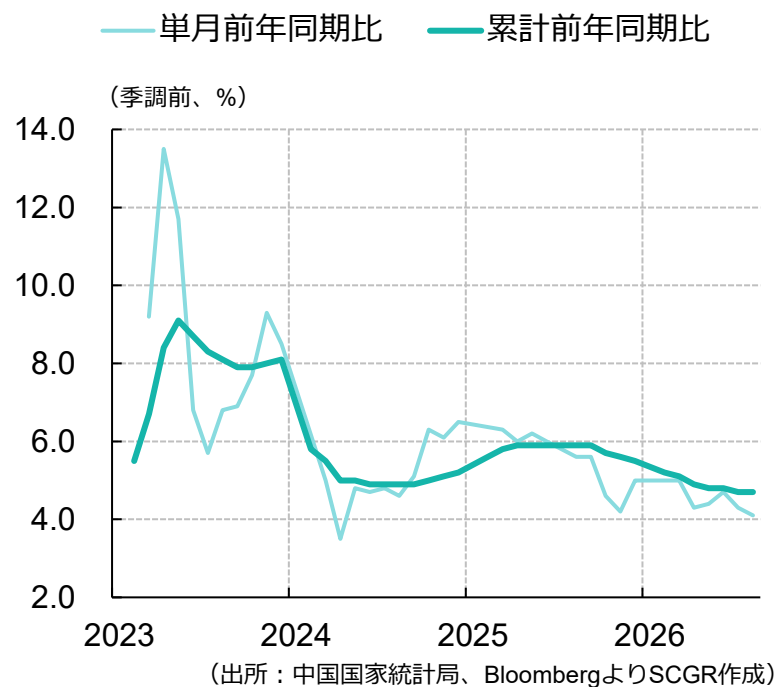


非製造業の動向

- サービス業は一定の伸びを保つが、増勢は緩やかに鈍化
- 飲食収入は低い伸びにとどまり、旅客輸送量も前年並み
- サービス活動には底堅さもみられるが、回復の広がりは限定的

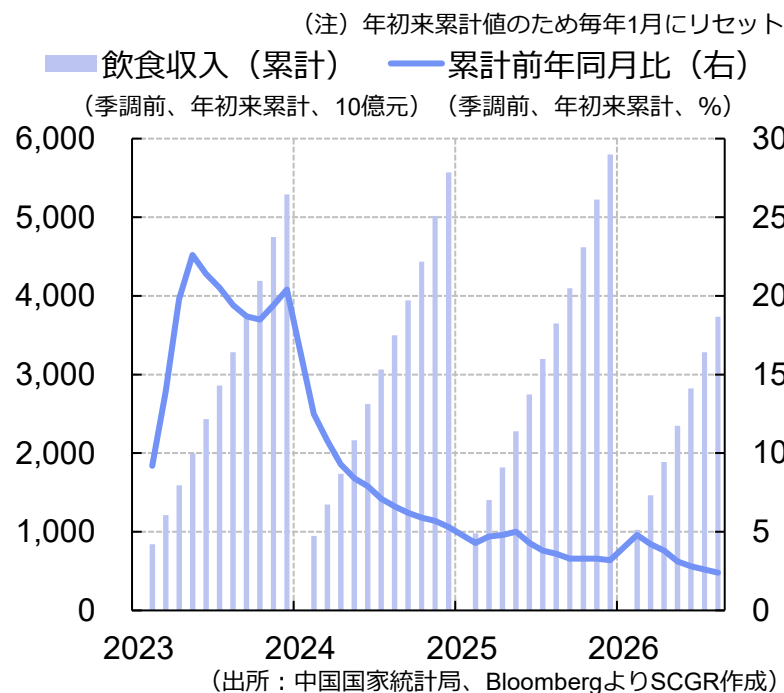
サービス業成長率

- サービス活動は緩やか拡大が続く
- しかし、伸び率は4%台へ鈍化



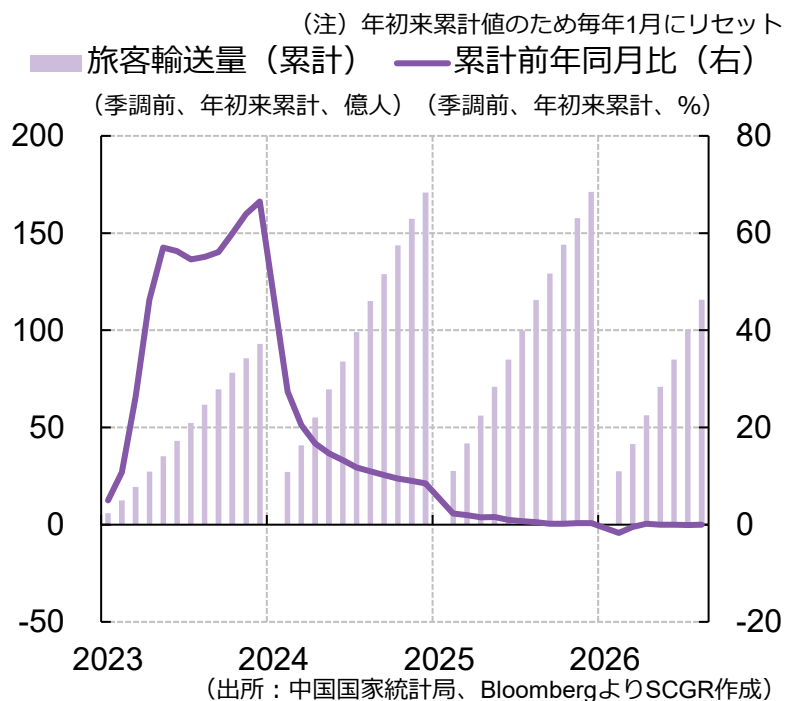
飲食収入（累計）

- 飲食関連の収入は伸びてはいるものの鈍化傾向
- 節約志向の強さを示唆する動向に注目



旅客輸送量（累計）

- 輸送量は前年並みで推移
- 高い伸びは既に一巡
- 移動需要の拡大はみられず、秋の動きに注目



電力需給

- 発電量と消費量は季節変動を伴いながら増加基調を維持
- 電源構成は火力中心で、水力などの変動を補う構造が続く
- 電力消費は増加するも、景気との連動性には留意

電力需給

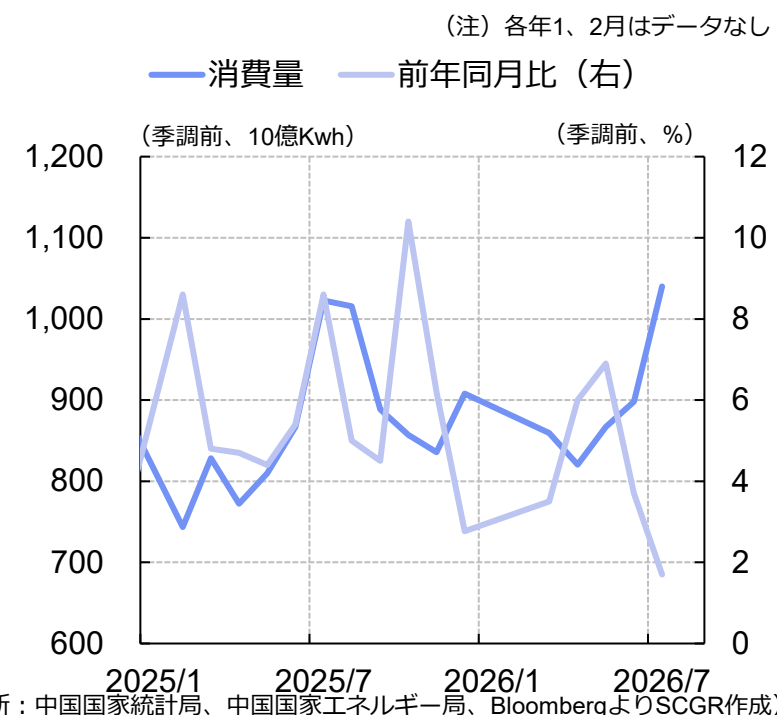
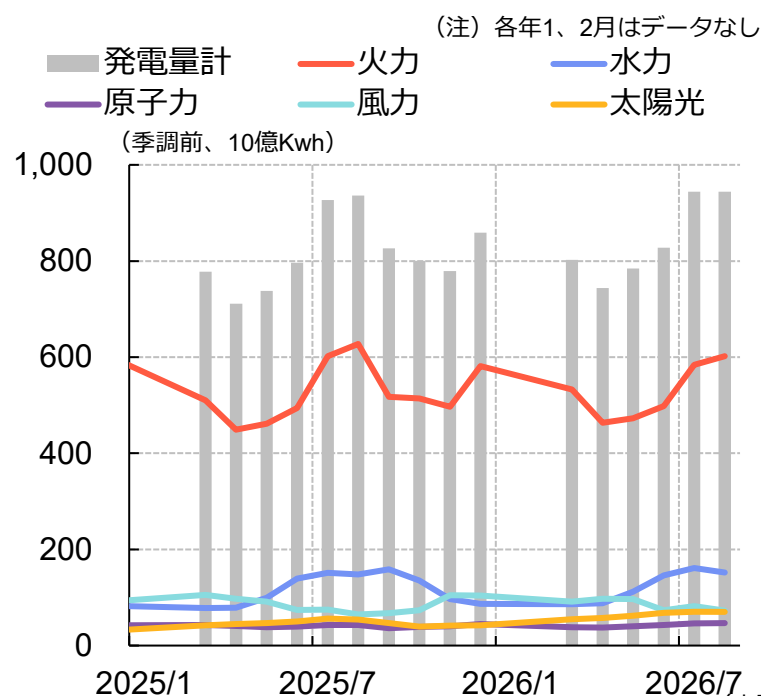
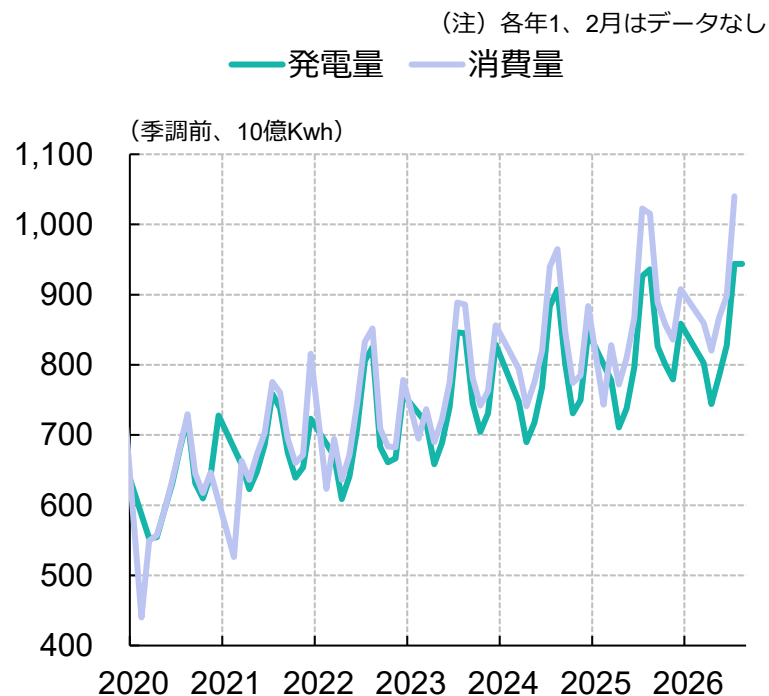
- 発電量と消費量は増加
- 季節変動を伴いつつ増加基調
- 電力需要は高水準で推移

電源構成

- 火力が発電の中心を維持
- 水力は季節変動が大きい
- 電源構成の基調は変わらない

電力消費量

- 消費量の伸びは再加速
- 前年同期比も上昇している
- 電力需要は足元で増勢が強まる

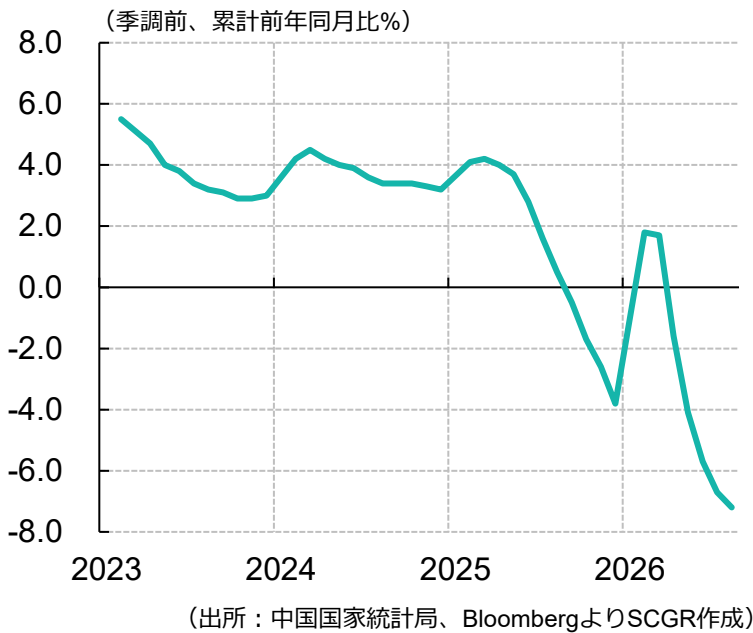


固定資産投資

- 固定資産投資は減少幅が拡大し、全産業で減少
- ハイテク分野に底堅さも、第三次産業の落ち込みが大きい
- 政策支援分野の投資だけでは全体の落ち込みを補えず

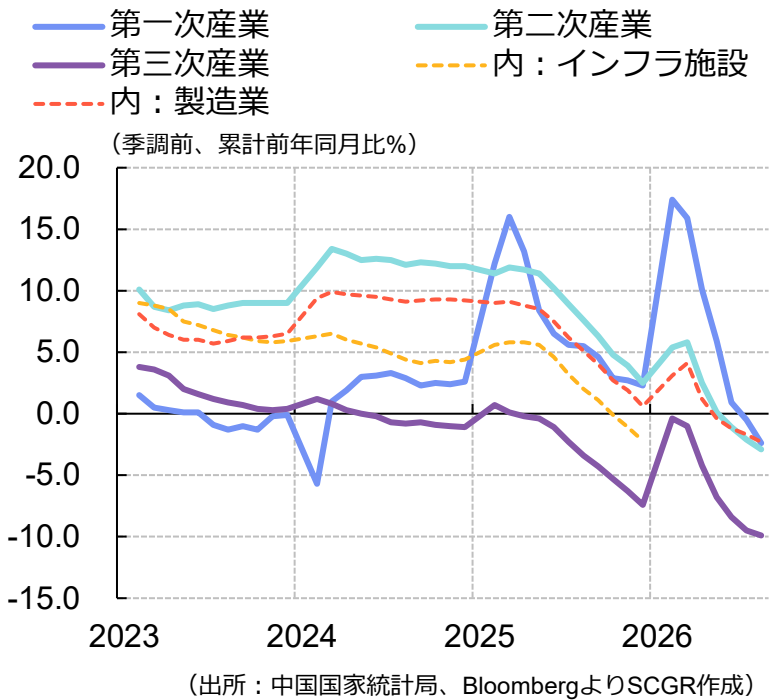
固定資産投資の推移（年初来前年比）

- 投資は7%超の減少
- 年初来の落ち込みが拡大
- 投資需要の基調は弱い



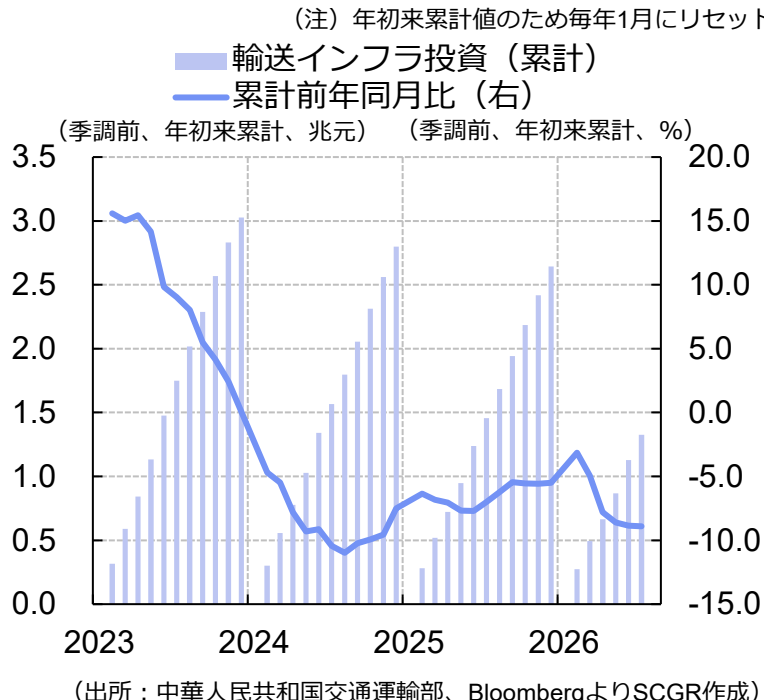
産業別固定資産投資成長率月次推移

- 3産業すべてが減少
- 第三次産業の弱さが目立つ
- 投資の弱さは幅広い分野に及ぶ



輸送インフラ投資（累計）

- 輸送投資は前年割れ
- 累計額の増加も力強さを欠く
- 輸送インフラ投資の下支え効果は限定的

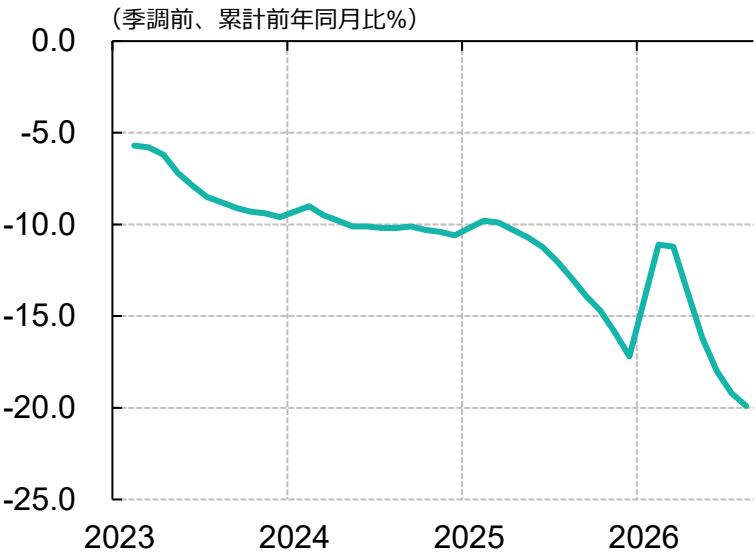


不動産市場の動向

- 不動産市場は投資・販売・価格の各面で深い調整が継続
- 開発投資の減少が続く、販売・着工も弱い
- 需要回復に結び付かず、不動産は引き続き景気の制約

不動産開発投資成長率

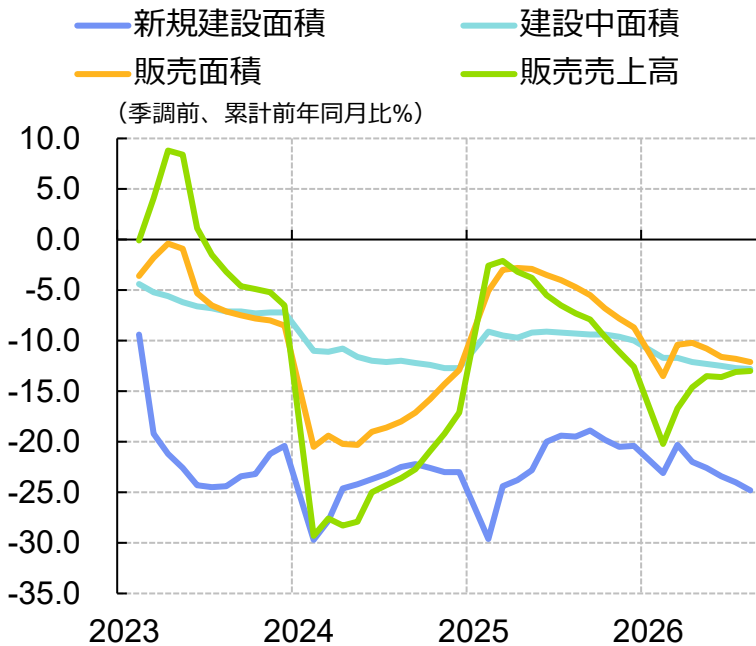
- 開発投資の減少幅は再び拡大
- 一時的な改善を挟みつつ減少が長期化
- 新規投資の回復にはつながっていない



(出所：中国国家统计局、BloombergよりSCGR作成)

不動産開発段階別、販売関連の成長率

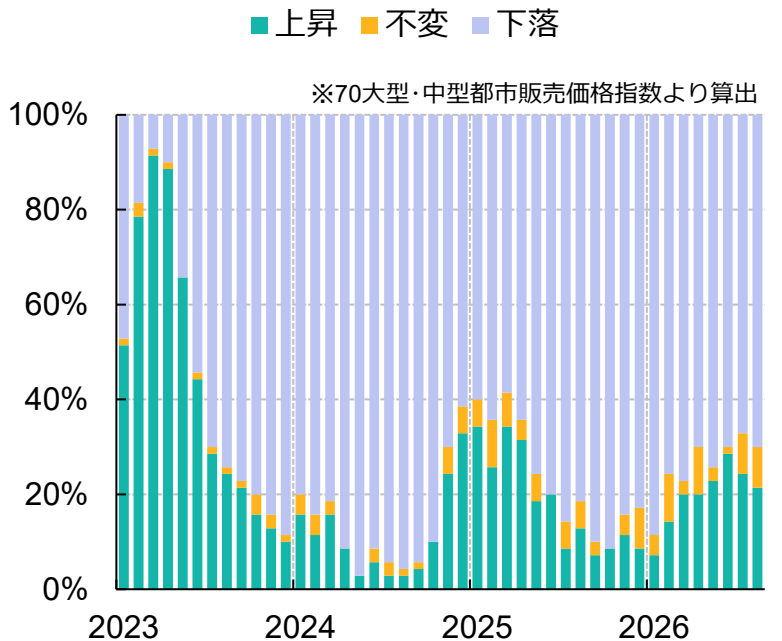
- 着工・販売・竣工はそろって減少
- 販売面積の低迷が続く、需要の弱さが鮮明
- 市場調整は広範かつ深い



(出所：中国国家统计局、BloombergよりSCGR作成)

住宅価格

- 下落都市が大半を占める
- 上昇都市は一部にとどまる
- 価格面でも底打ちは確認できない



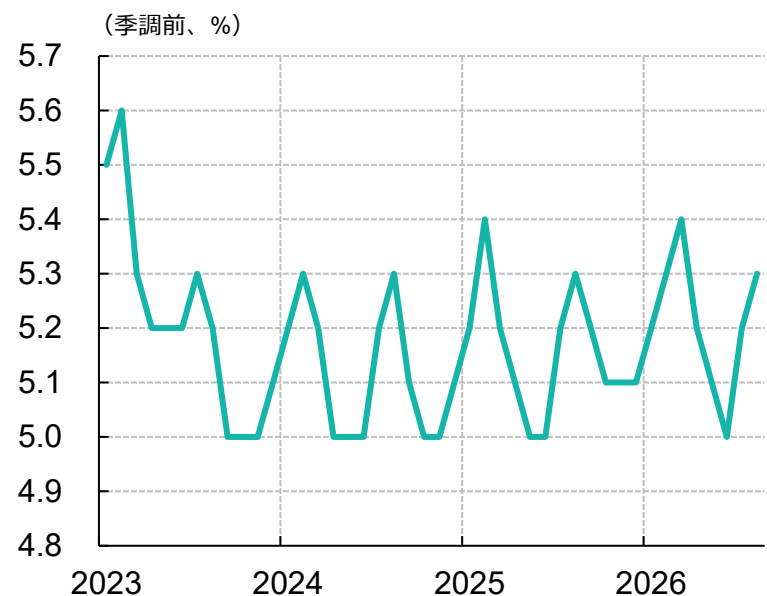
(出所：中国国家统计局、BloombergよりSCGR作成)

労働市場

- 都市部失業率は横ばい圏ながら、若年層の雇用環境は弱い
- 年齢別では若年層と中高年層の失業率に大きな差が残る
- 労働時間も低位で、雇用面からの内需下支えは弱い

都市部調査失業率

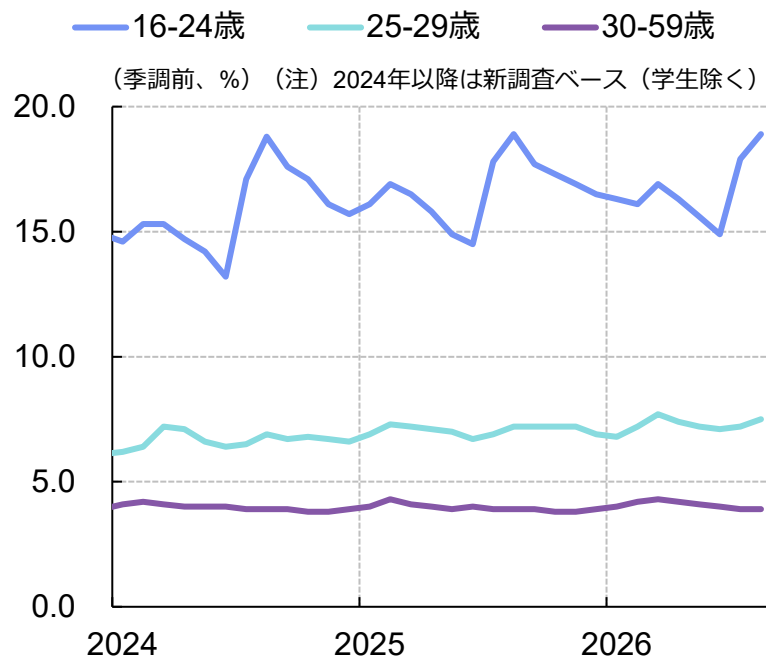
- ・ 失業率は5%台前半で推移
- ・ 低下傾向は明確ではない
- ・ 雇用環境の改善は確認できない



(出所：中国国家统计局、BloombergよりSCGR作成)

年齢別都市部失業率

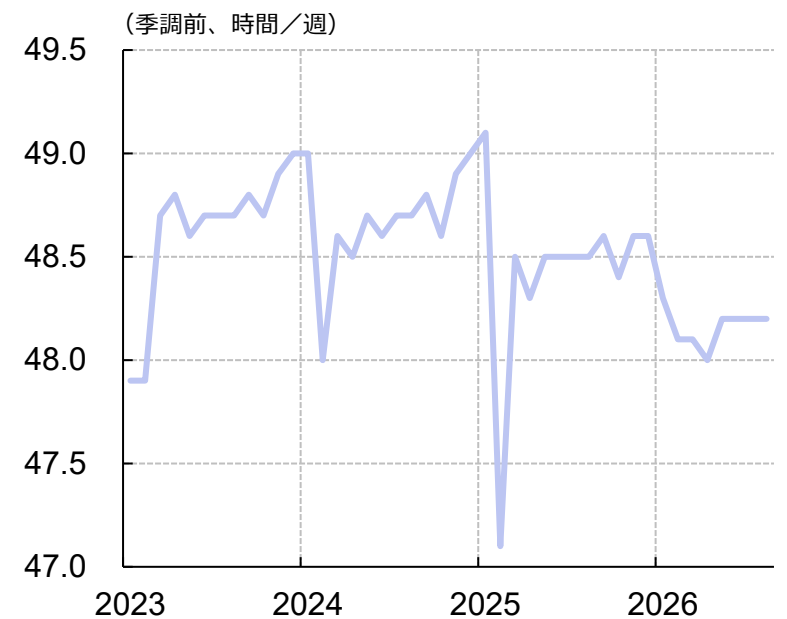
- ・ 若年失業率は高水準に上昇
- ・ 他の年齢層との差が一段と大きい
- ・ 雇用の弱さは若年層に集中



(出所：中国国家统计局、BloombergよりSCGR作成)

平均労働時間

- ・ 労働時間は低位で推移
- ・ 前年までの水準を下回る状態が続く
- ・ 雇用所得への下押し圧力が残る



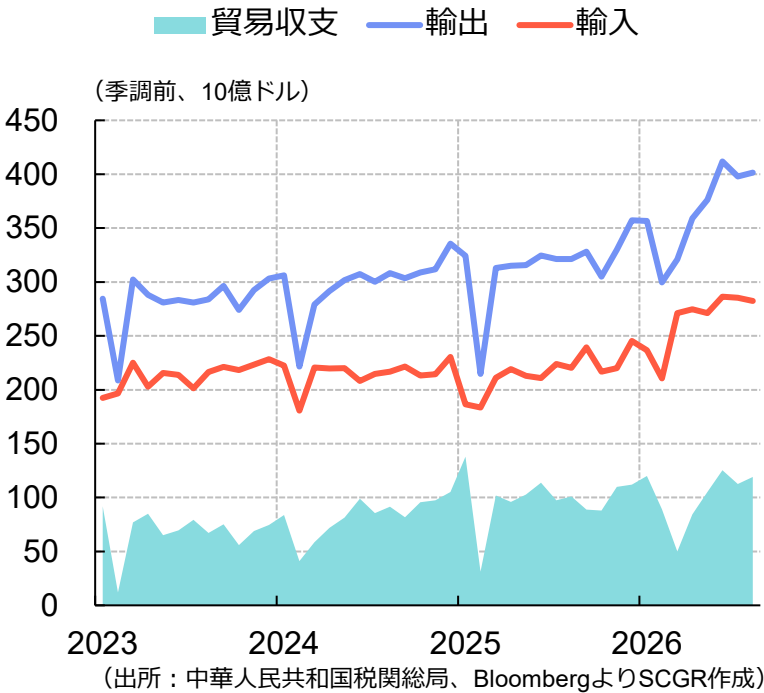
(出所：中国国家统计局、BloombergよりSCGR作成)

貿易動向

- 輸出額は高水準で推移し、貿易黒字も拡大
- ASEAN向け輸出が高い伸びを維持、米国向けも持ち直しに転じている
- 品目別では価格寄与も大きく、輸出の強さには偏り

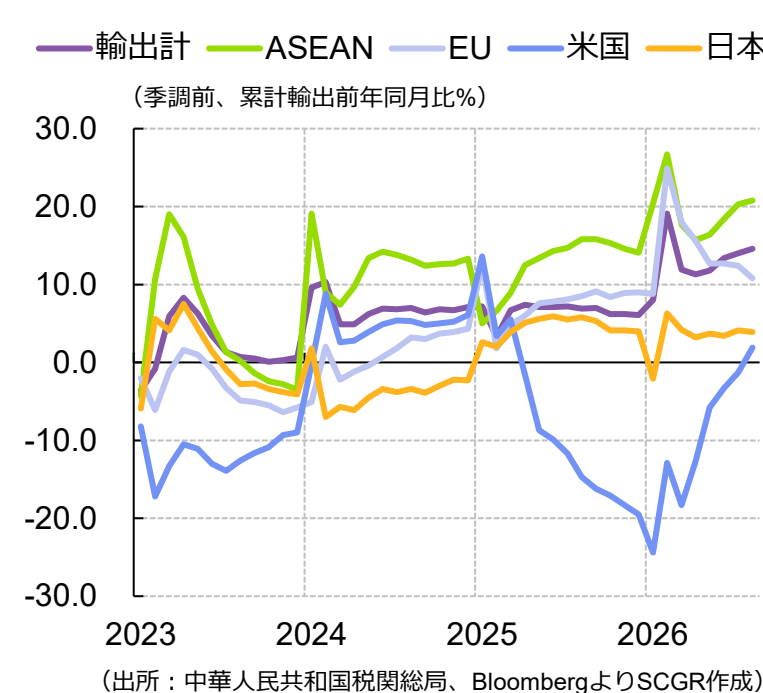
貿易収支

- 輸出入はともに高水準で推移
- 輸出超過の構図が継続
- 外需は名目金額で強さを保つ



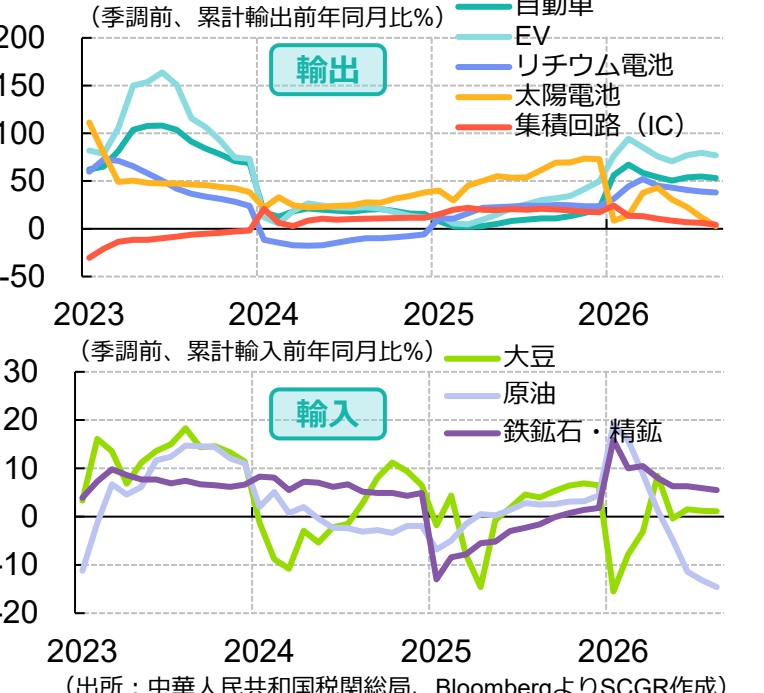
地域別貿易動向

- ASEAN向け輸出が高い伸び
- 米国向けは減少圏を脱しつつある
- 地域別需要のばらつきは大きい



輸出入の主要品目別動向

- 輸出はハイテク品目が牽引
- 金額増に対し一部品目は数量減
- 輸出の強さは価格寄与が大きい

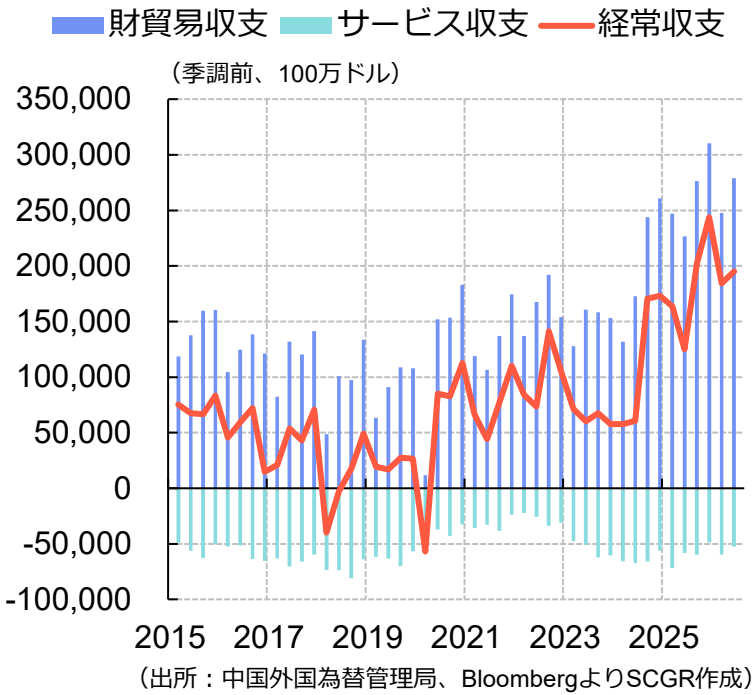


国際収支

- 貿易黒字の拡大により、経常収支は高水準の黒字を維持
- 対内直接投資は減少が続き、資本流入の弱さが残る
- 外貨準備は増加基調で、高水準を維持

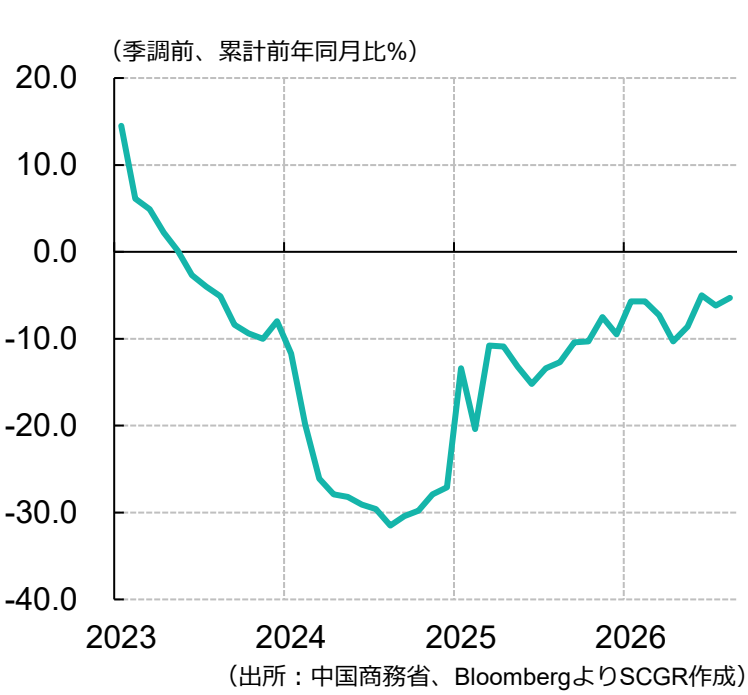
経常収支

- 経常黒字は高水準に拡大
- 財貿易黒字が収支を主導
- 対外収支の安定性は維持



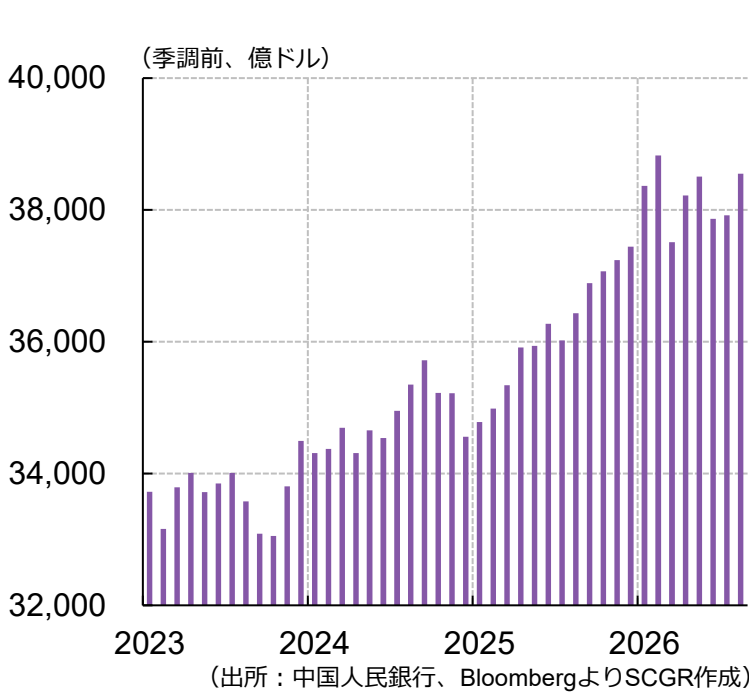
FDI成長率（前年同期比、実行ベース）

- 対内直接投資は減少が継続
- 減少幅は縮小も、流入の弱さが続く
- 対内投資の回復は確認できない



外貨準備高

- 外貨準備は増加基調
- 変動を伴いつつ高水準を維持
- 対外的な備えは引き続き厚い

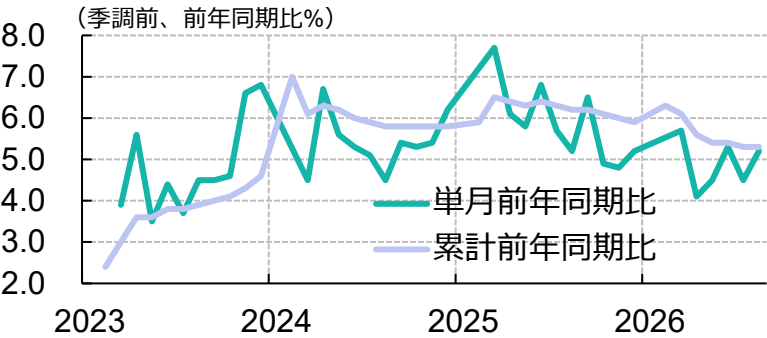


工業増加値

- 工業生産は5%前後の伸びを維持する一方、業種差が大きい
- 電子機器産業や一般機械が生産を支える一方、個別製品では減産も目立つ
- 生産の強さはハイテク・機械分野に偏り、業種間のばらつきが大きい

工業増加値成長率

- 工業生産は底堅い伸びを維持
- 累計と単月は同程度で推移
- 生産の強さに広がりや欠く



工業増加値成長率トップ5の産業（単月前年同期比）

対象年月：2026/8

産業		%
Top1	通信・コンピュータ・その他電子機器	17.2
Top2	鉄道、海運、航空宇宙、その他輸送機器製造業	13.4
Top3	特別目的機器製造	11.4
Top4	電気機械・機器製造業	9.9
Top5	一般機械	9.8

主要製品成長率（単月前年同期比）

製品	Aug-26	Jul-26
原油	0.8	0.8
石炭	-7.7	-10.1
硫酸	-15.5	-14.0
自動車	-2.7	-0.1
鉄鋼製品	-5.5	-4.1
セメント	-11.7	-11.6
金属切削工作機械	14.1	4.0
携帯電話	-18.0	-16.7
太陽電池	-12.9	-9.4
銑鉄	-3.5	-4.5
粗鋼	-3.7	-3.6
マイクロプロセッサ	-25.6	-23.0

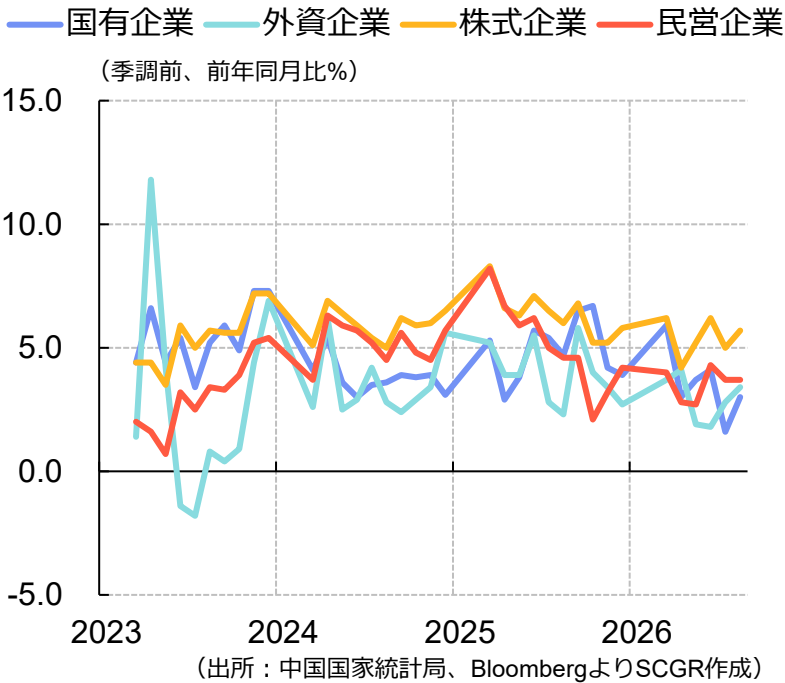
生産量成長率トップ5の産業（単月前年同期比）

対象年月：2026/8

産業		%
Top1	産業用ロボット	34.6
Top2	新エネルギー車	21.9
Top3	IC	20.6
Top4	スポーツ用多目的車(SUV)	17.0
Top5	金属切削工作機械	14.1

企業性質別工業増加値成長率

- 株式企業の伸びが相対的に高い
- 外資企業と国有企業は低位
- 企業形態別の伸びにばらつき



金融・為替市場

- 政策金利の低下が続く一方、長期金利の低下は緩やか
- 短期金利と国債利回りの低下幅には差が残る
- 金融緩和が続く一方、実体経済への波及は限定的

政策金利・短期市場金利の推移

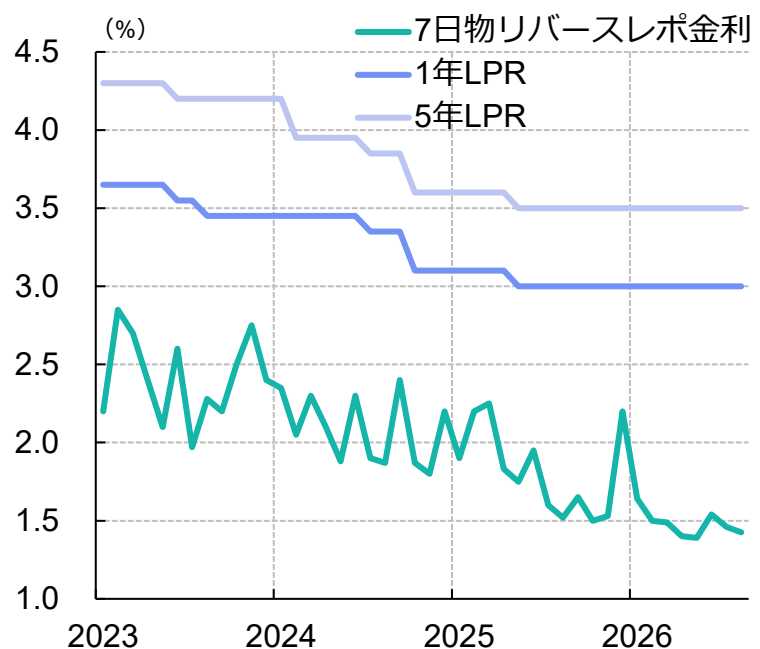
- 政策金利は段階的に引き下げ
- 短期市場金利も低位で推移
- 金融緩和の実体経済への波及は限定的

長期金利・イールドカーブの推移

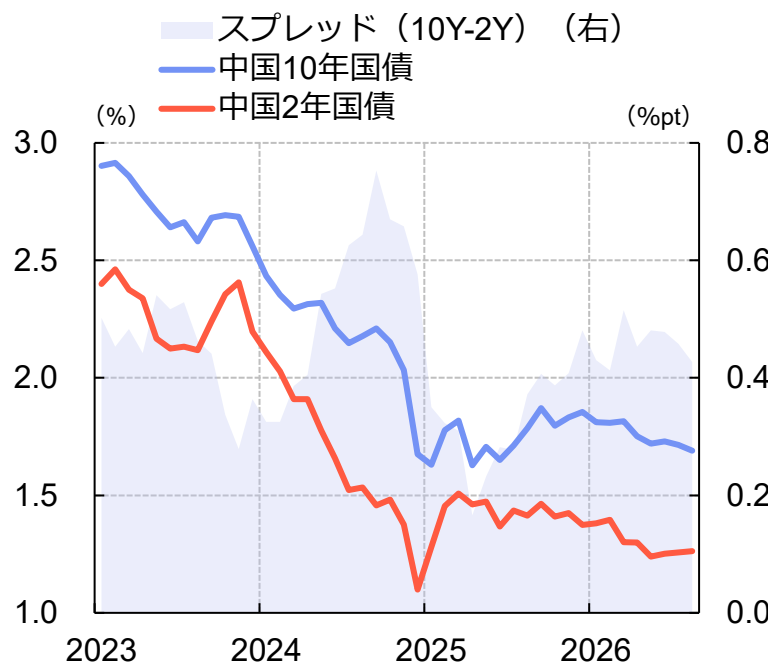
- 国債利回りは低下基調
- 長短金利差は変動を伴い推移
- 長期金利は低水準で推移

人民元相場の推移

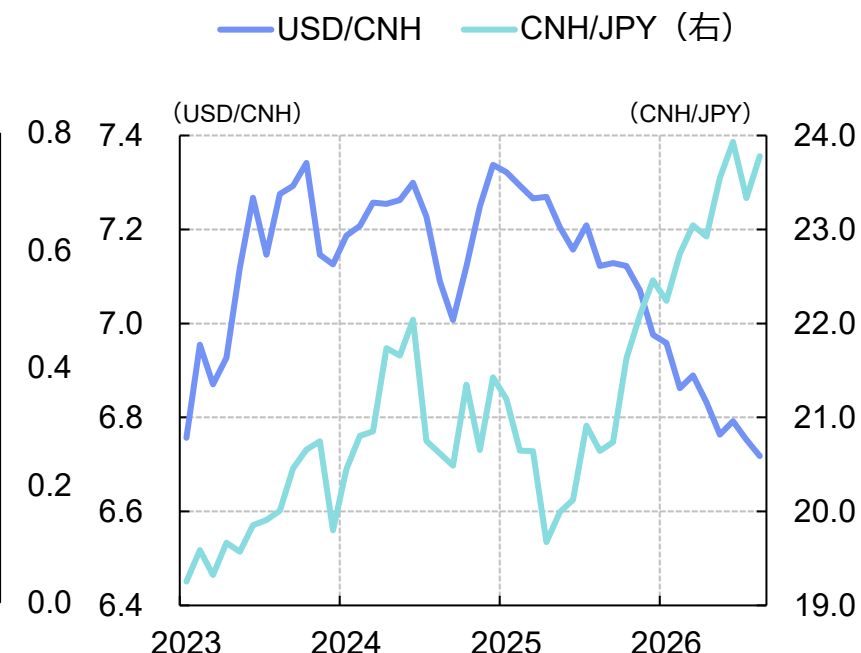
- 人民元は対ドルで上昇基調
- 対円でも人民元高が進行
- 主要通貨に対して人民元高が進む



(出所：中国人民銀行、BloombergよりSCGR作成)



(出所：BloombergよりSCGR作成)



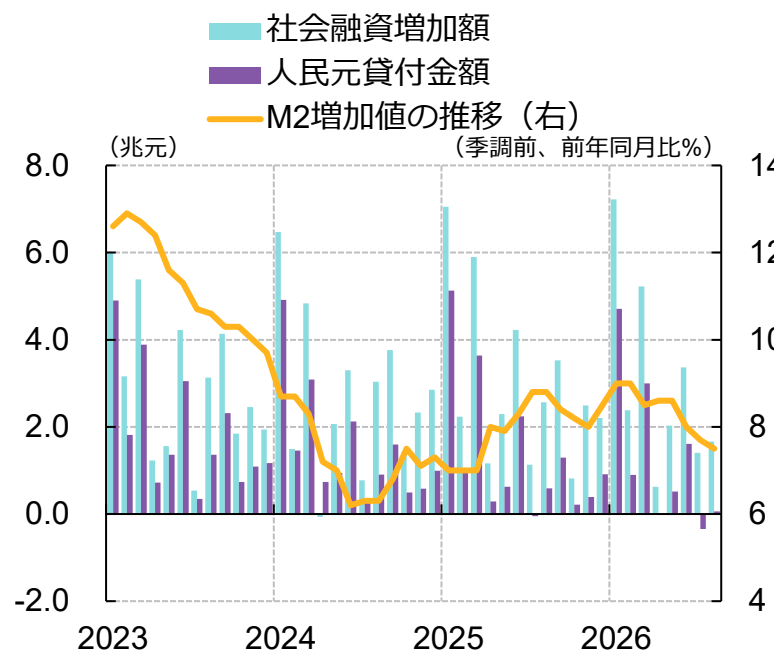
(出所：BloombergよりSCGR作成)

金融政策・信用状況

- 資金供給は維持される一方、企業・家計の融資需要は弱い
- 企業向け融資は振れが大きく、家計向け融資は弱含む
- 金融緩和が幅広い信用需要の回復にはつながっていない

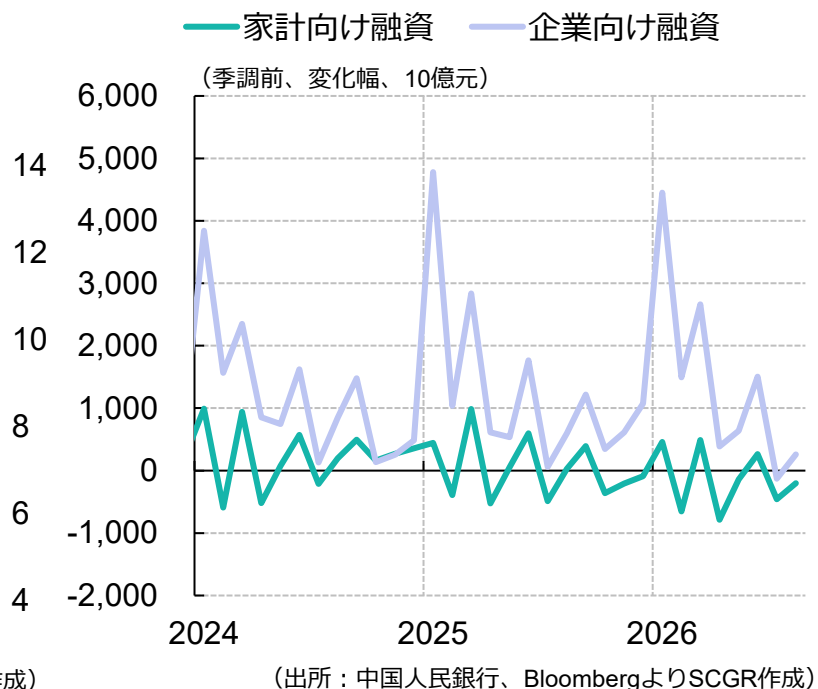
流動性供給・資金調達動向

- 社会融資は月ごとの振れが大きい
- 人民元貸出の寄与は相対的に小さい
- 資金供給に比べ民間の資金需要は弱い



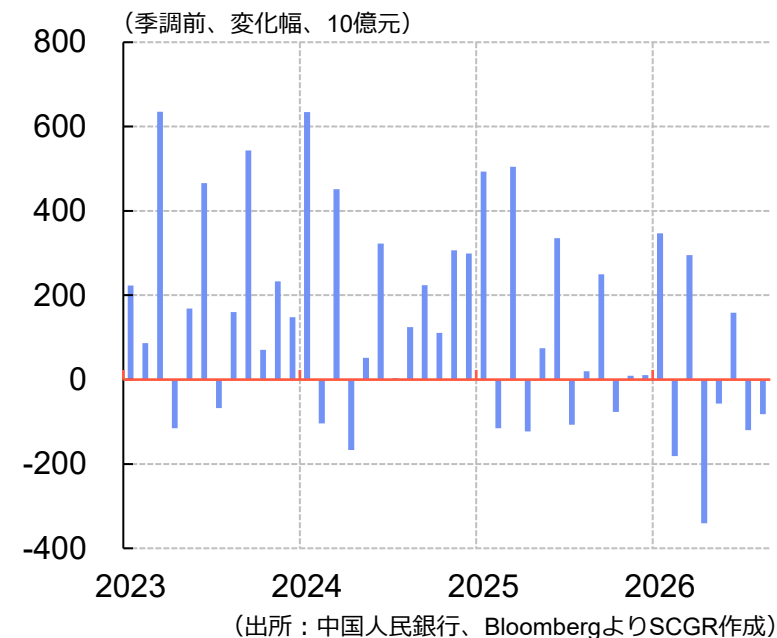
企業・家計向け融資動向

- 企業融資は増加局面でも変動が大きい
- 家計融資はマイナス圏が目立つ
- 企業・家計とも資金需要は弱い



家計向け中長期融資

- 中長期融資は減少月が増加
- 住宅関連の資金需要は弱い
- 家計の中長期借入は弱含む

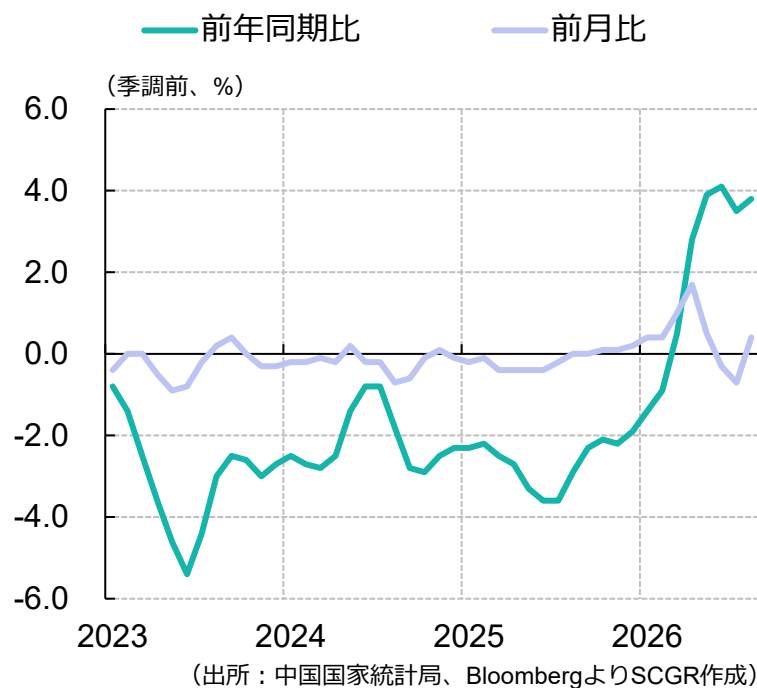


卸売物価（企業物価）

- PPI前年比はプラスへ転じたが、前月比の上昇は定着せず
- 生産資材価格は鉱山を中心に上昇し、業種差が大きい
- 価格上昇は資源関連に偏り、広がりは限定的

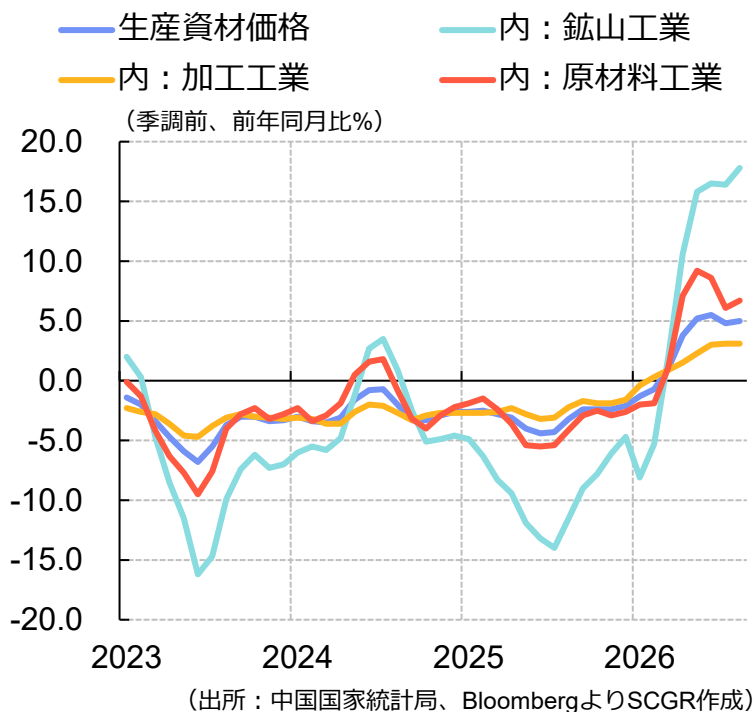
PPI月次推移

- ・ 前年比はマイナス圏から上昇
- ・ 前月比はゼロ近傍で不安定
- ・ 価格上昇の持続性には不透明感



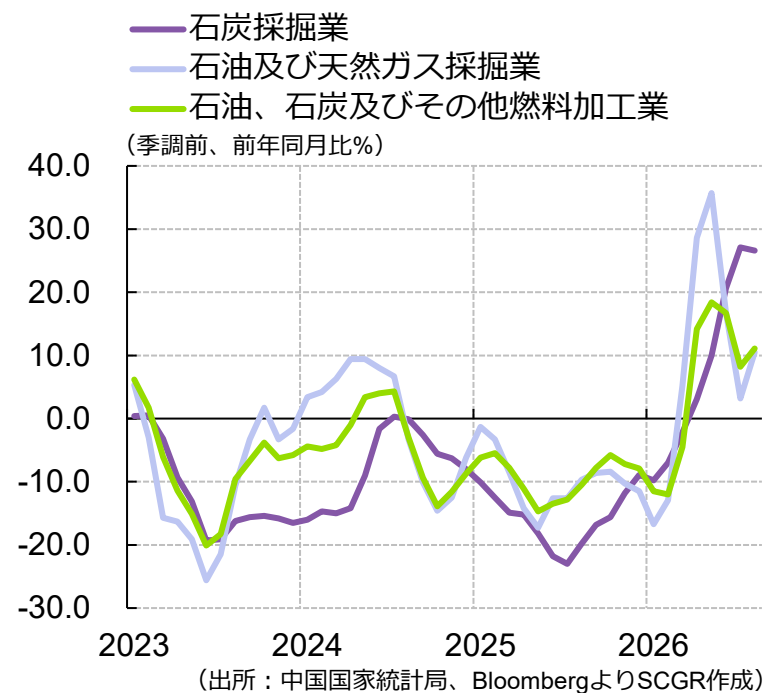
生産資材別の前年同月比

- ・ 生産資材価格はプラスへ転換
- ・ 鉱山工業の上昇が突出
- ・ 価格上昇は資源関連に集中



分野別の前年同月比

- ・ 資源関連価格が大幅に上昇
- ・ 分野ごとの上昇幅には差が残る
- ・ 幅広い需要主導の物価上昇とは言い難い

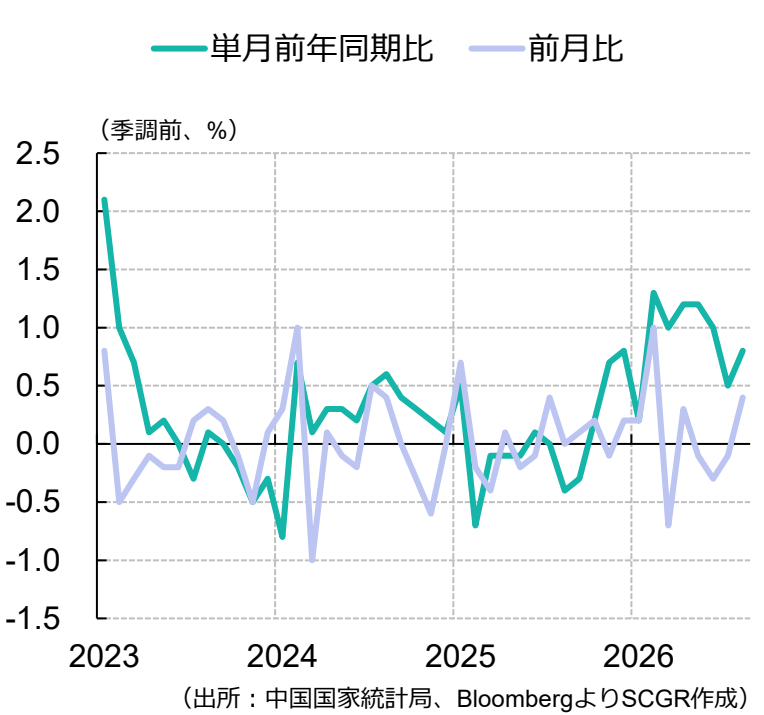


消費者物価

- CPIは小幅なプラスを維持するが、物価上昇の広がり弱い
- 食品は下落品目が多く、サービス価格も分野差が大きい
- 需要主導の物価上昇とは言い難く、基調的な物価上昇圧力は弱い

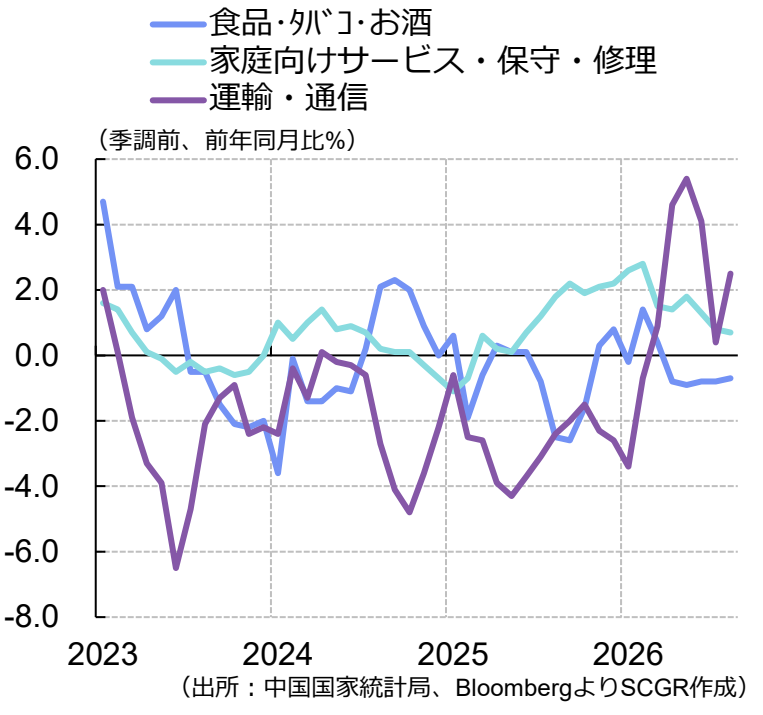
CPI月次推移

- 前年比は小幅なプラス圏
- 前月比は振れを伴い推移
- 消費者物価の上昇基調は弱い



食材価格の単月前年同期比

- 食品価格はマイナス圏で推移
- 品目間の価格差が大きい
- 価格動向は分野ごとにばらつく



主要食品価格（前年比）

- 食品物価の上昇は一部品目に限られる
- 鶏卵と牛羊肉は上昇
- 豚肉や生鮮野菜は下落

(%)		
商品	Aug-26	Jul-26
食品・外食・お酒	-0.7	-0.8
穀物	-0.6	-0.4
油脂	-1.3	-1.1
生鮮野菜	-2.8	-0.3
肉類	-5.1	-6.0
豚肉	-11.8	-13.3
牛肉	5.3	4.5
羊肉	6.3	6.2
水産物	-0.6	-0.6
鶏卵	15.0	14.4
乳製品	-1.4	-1.5
生鮮果物	-0.5	-1.1
タバコ	-0.7	-0.7
酒類	-2.9	-3.0

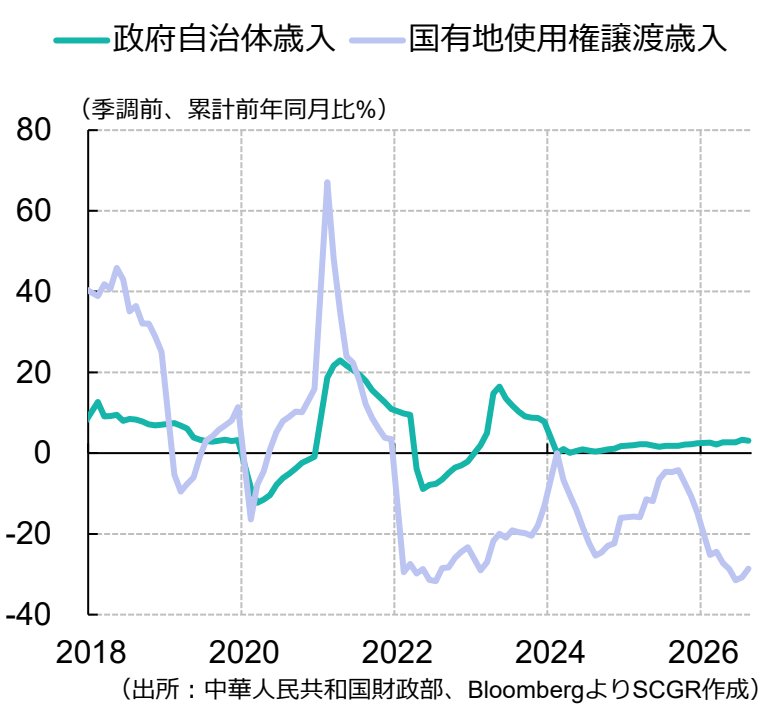
(出所：中国国家统计局、BloombergよりSCGR作成)

地方政府財政

- 一般財政収入は小幅増だが、土地関連収入の低迷が続く
- 地方債発行は高水準で、借換債も資金調達の大きな部分を占める
- 歳入の弱さと借換需要が地方財政の制約要因に

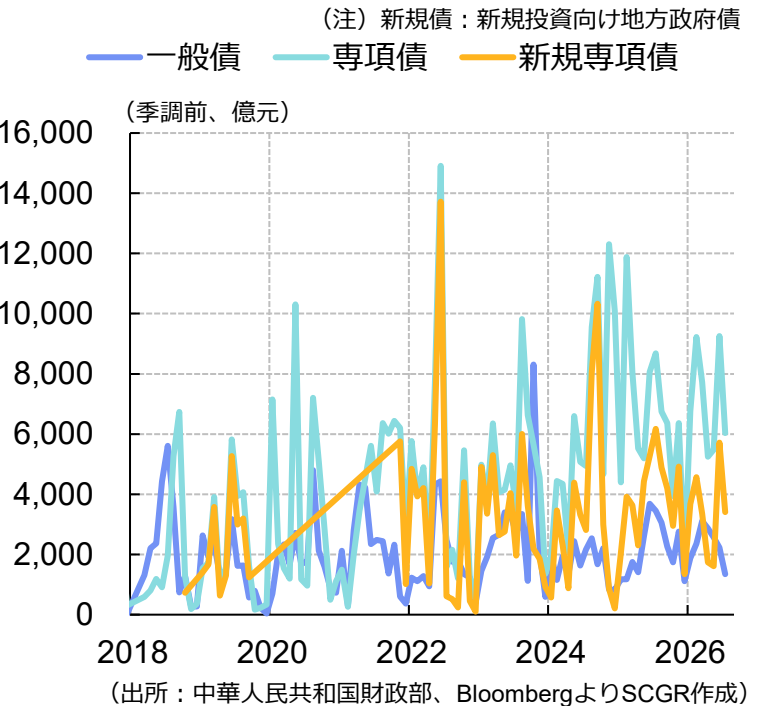
地方財政収入動向

- 一般財政収入は小幅な増加
- 土地使用権譲渡収入は大幅減
- 地方財政の歳入基盤は弱い



地方政府債発行動向

- 地方債発行は高水準で推移
- 専項債と新規債の発行が続く
- 債券発行増が新規投資に直結するとは限らない



地方政府借換債発行動向

- 借換債の発行が継続
- 専項借換債も高水準で推移
- 債務借換の資金需要が大きい

